

新潟西部地域の作物

令和7年3月

新潟地域農業振興協議会新潟西部支部

監修 巻農業普及指導センター

目 次

I	令和6年度稲作期間の気象と作況	
1	稲作期間の気象	1
2	県内の作況	2
3	作柄要因図	3
II	生育の特徴と技術の動向	
1	品種	4
2	育苗	4
3	耕起～田植え	5
4	施肥	6
5	水管理	6
6	除草	7
7	病虫害	8
8	収穫・乾燥・調製	11
9	直播栽培	12
III	令和6年度稲作の結果と次年度対策	
1	管内概況	14
2	品種別概況	14
3	格落要因	22
4	令和6年産米の収量・品質に影響を及ぼした要因と対策	24
5	次年度技術対策	25
IV	令和6年産大豆作の概況と次年度対策	
1	大豆作期間の気象	27
2	作付状況と収量・品質	28
3	収量および品質に影響した主な要因	28
4	気象経過と生育概況	29
5	大豆安定生産に向けた重点事項	32
V	令和6年度麦作の生育状況と作柄	
1	令和6年産麦の作柄概況	33
2	麦の作柄・品質に影響したと考えられる要因	33
3	令和7年産麦の作付概況（令和6年秋は種）	33
VI	令和6年度新潟西部支部新潟米部会の主な取組状況	
1	取組方針	34
2	活動体制	34
3	会議・研修会等の開催	35
4	活動目標及び結果	37

Ⅶ 技術資料

技 1	水稻定点等生育調査ほ成績	
1	コシヒカリ	38
2	こしいぶき	41
3	新之助	42
技 2	令和 6 年度課題解決実証ほ成績	43
技 3	適期収穫実証結果（登熟積算気温による玄米品質の変化）	47
技 4	令和 6 年度水稻 V 溝乾田直播栽培実証結果	48
技 5	令和 6 年度プラウ耕鎮圧体系方式水稻乾田直播栽培実証結果	50
技 6	雑草イネ防除対策実証結果	52

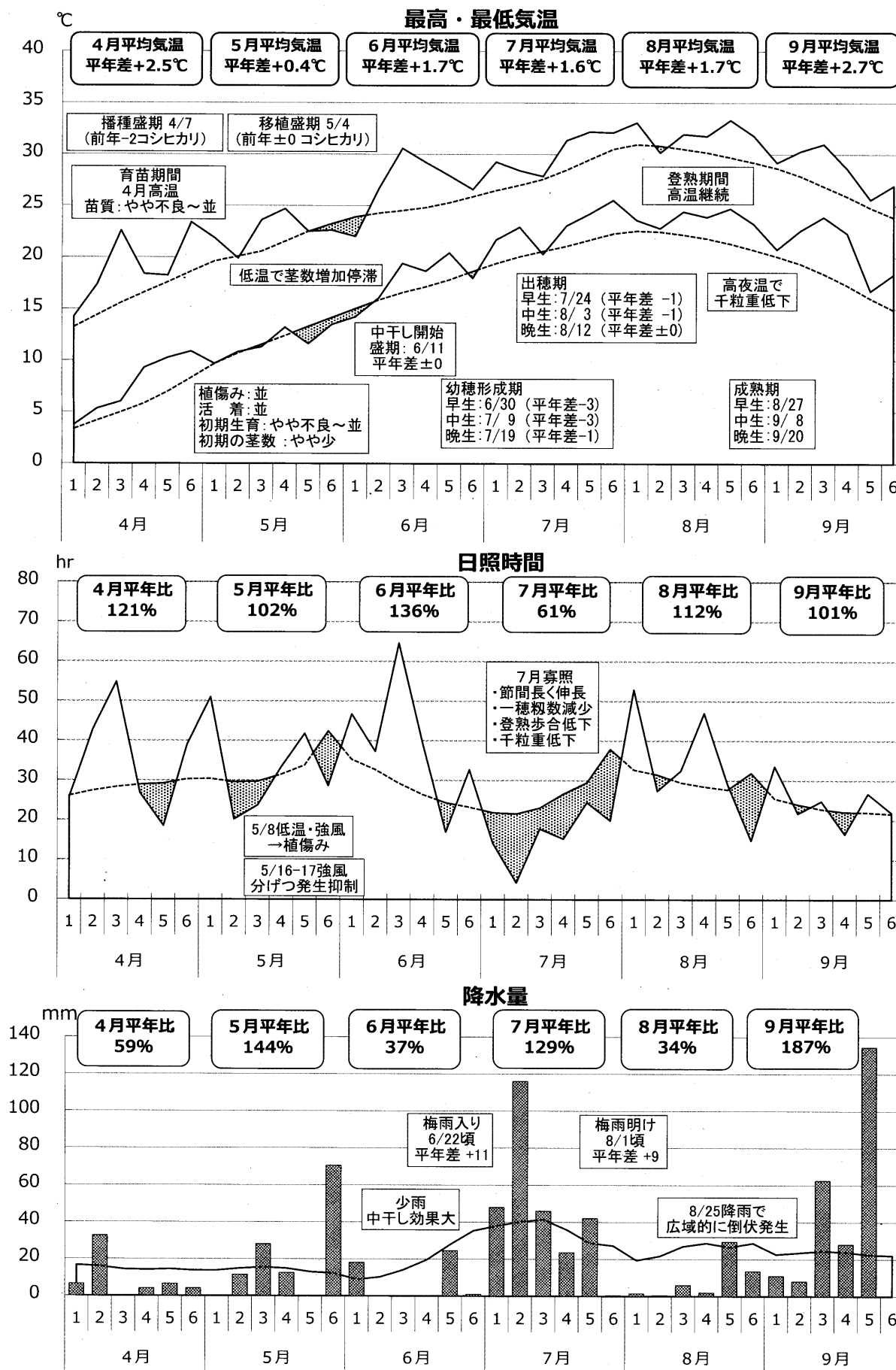
Ⅷ 参考資料

資 1	水稻作柄の年次推移	53
資 2	令和 6 年産米検査成績	54
資 3	米の主な格落理由	55
資 4	管内地区別米検査等級の推移	56
資 5	大豆検査成績	57
資 6	麦検査成績	58
資 7	年次別水稻生育調査結果	59
資 8	年次別水稻収量調査結果	61

I 令和6年度稲作期間の気象

1 稲作期間の気象

観測場所：新潟県農業大学校（新潟市西蒲区巻甲）



2 県内の作況（北陸農政局新潟県拠点 令和6年12月10日公表より抜粋）

- （1）令和6年産水稻の作付面積（子実用）は11万6,200haで、前年に比べ400ha増加した。
- （2）水稻の10a当たり収量（ふるい目幅1.85mm）は515kgで、作況指数は98となった。
- （3）収穫量（子実用）は62万2,800tとなり、前年産に比べ3万1,100t増加した。
- （4）作柄表示地帯別の作況指数は、下越97、中越99、上越101、佐渡95となった。

表1 令和6年産 水稻作付面積及び予想収穫量

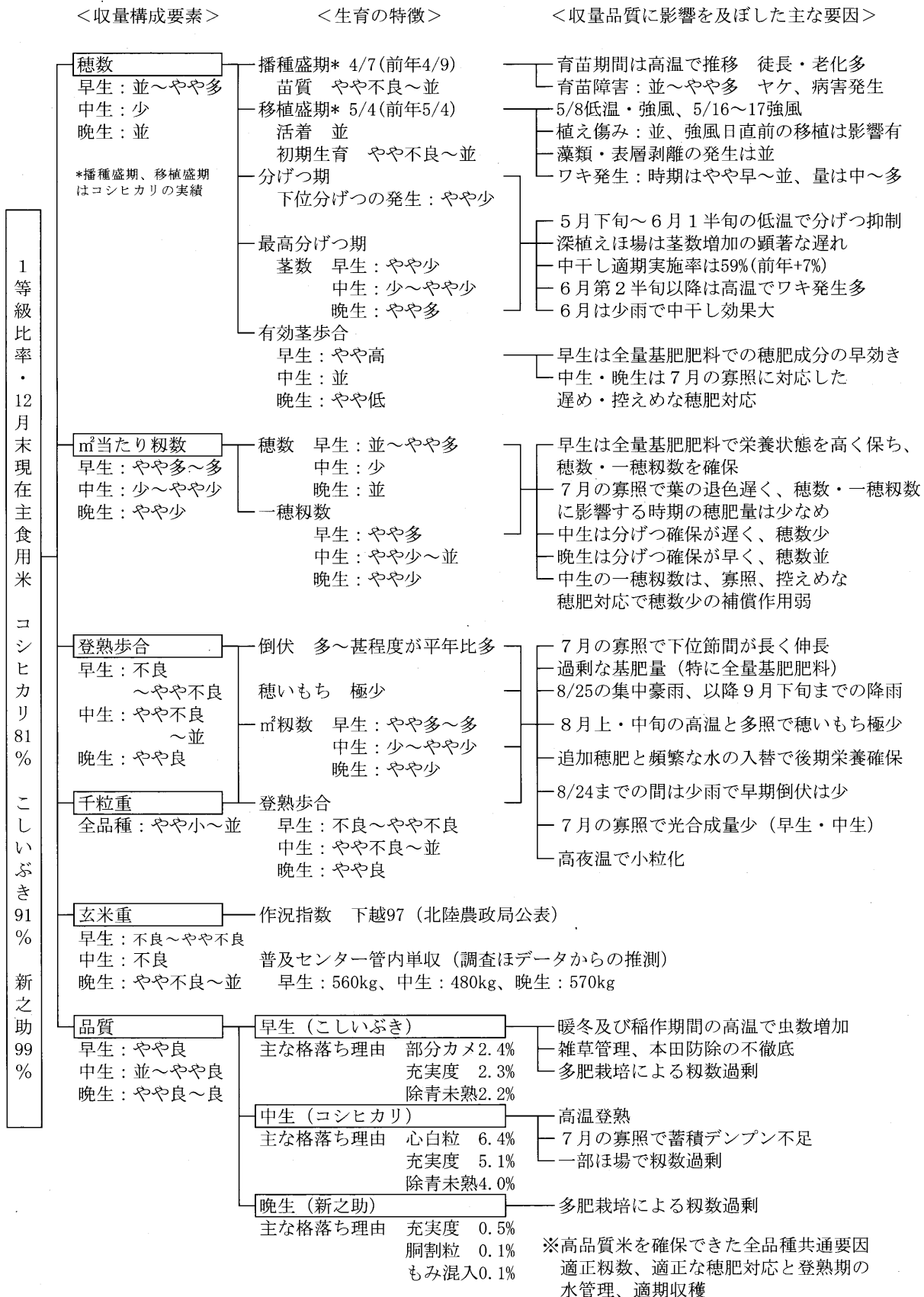
区分	作付面積（子実用）			10a 当たり 収量 (kg/10a)	10a 当たり 平年収量 (kg/10a)	作況 指数	収穫量 (子実用 t)
	(ha)	前年との比較					
		対差(ha)	対比(%)				
新 潟 県	116,200	400	100	515	524	98	622,800
下 越	57,200	400	101	524	539	97	312,300
中 越	39,200	△100	100	509	512	99	207,400
上 越	14,500	200	101	510	503	101	76,900
佐 渡	5,290	△70	99	475	501	95	26,300

（北陸農政局統計部公表）

※作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む）を除いた面積

※収量は、農家などが使用しているふるい目幅（1.85mm）ベースでの数値、収穫量（子実用 t）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量

3 作柄要因図



Ⅱ 生育の特徴と技術の動向

1 品 種

「新之助」の作付比率は増え、「コシヒカリ」は微減した。「ゆきん子舞」「こしいぶき」「こがねもち」は前年並みであった。

表1 管内における年次別水稻作付品種と作付比率（単位：％）

	1位	2位	3位	4位	5位
令和6年産 (2024)	コシヒカリ 56.2	ゆきん子舞 16.1	こしいぶき 13.6	新之助 5.0	こがねもち 2.3
令和5年産 (2023)	コシヒカリ 57.8	ゆきん子舞 15.9	こしいぶき 13.4	新之助 3.8	こがねもち 2.2
令和4年産 (2022)	コシヒカリ 57.0	ゆきん子舞 16.6	こしいぶき 14.1	新之助 3.4	こがねもち 2.2
令和3年産 (2021)	コシヒカリ 55.2	ゆきん子舞 16.5	こしいぶき 15.8	新之助 2.9	こがねもち 2.2
令和2年度 (2020)	コシヒカリ 56.1	ゆきん子舞 17.3	こしいぶき 15.1	わたぼうし 2.3	こがねもち 2.3
令和元年度 (2019)	コシヒカリ 56.9	ゆきん子舞 16.6	こしいぶき 16.2	わたぼうし 2.2	こがねもち 1.9

※J Aの出荷契約数量（全品種）から作付面積を推定
（巻農業普及指導センター調べ）

2 育 苗

(1) 育苗様式

育苗様式では稚苗育苗が水稻作付面積の99.8%を占め、そのうち無加温育苗は95.3%を占めた。稚苗育苗は近年ほぼ横ばいで、中苗は採種ほで作期分散のためにわずかに実施されている。プール育苗は増加が続いている。

表2 育苗様式の推移（単位：％）

年度 育苗様式	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
稚 苗	95.2	95.9	96.5	97.1	97.5	97.0	99.7	99.8
無加温	93.2	91.8	91.9	92.1	92.4	91.5	89.6	95.3
中 苗	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.3	0.2
(参考)プール育苗 面積 ha(%)	2,425 (28.1)	2,414 (26.8)	2,549 (28.8)	2,419 (27.3)	2,354 (26.4)	2,390 (27.5)	2,960 (33.2)	3,420 (38.8)
直播栽培	4.1	3.5	2.9	2.3	1.9	2.5	1.7	2.5

（巻農業普及指導センター調べ）

(2) は 種

は種盛期は依然として早い傾向であるが、経営規模拡大に伴い終期は遅くなっている。

表3 は種時期及びは種量(稚苗 コシヒカリ)

	始 期	盛 期	終 期	は種量	(巻農業普及指導センター調べ) ※始期は5%、盛期は50%、終期 は95%の実施率になった日
本 年	3月31日	4月7日	4月17日	153g/箱	
前 年	4月2日	4月9日	4月18日	154g/箱	
平 年	4月2日	4月8日	4月15日	150g/箱	

(3) 育 苗

種子の休眠が深い影響で、出芽揃いが悪かった。播種時期が早く、低水温での浸種となったところでは、その傾向が顕著であった。

育苗期間が高温で推移したこと、曜日の関係で育苗日数がやや長くなったことで、苗の徒長が進み、老化苗が多かった。また、4月第2～3半旬の高温によって、ムレ苗・ヤケ苗、細菌性病害などの育苗障害は平年並～やや多発生となった。

表4 育苗状況(コシヒカリ稚苗)

	出芽苗立 の状況	育苗日数	苗の素質	育苗障害
本 年	やや不良～並	27日	やや不良～並	並～やや多
前 年	並	25日	並～やや良	やや少

(巻農業普及指導センター調べ)

3 耕起～田植え

4月の降雨量は平年より少なく耕起作業は順調に行われた。

田植え始期及び盛期は平年並であった。また、田植え終期は経営規模の拡大の影響で、平年より5日遅かった。

植え傷み、苗の活着は並であった。

初期生育は、苗質、移植後の強風や5月下旬～6月上旬の低温、ワキの発生の影響により、やや不良～並となった。

表5 田植え時期(コシヒカリ)

	始 期	盛 期	終 期
本 年	4月29日	5月4日	5月19日
前 年	4月29日	5月4日	5月18日
参考) 平 年 (全品種)	4月29日	5月3日	5月14日

(巻農業普及指導センター調べ)

表6 水稻初期生育の状況

	植傷みの多少	活着の良否	初期生育の良否	草丈の長短	茎数の多少
本年	並	並	やや不良～並	長	やや少
前年	やや少	並～やや良	並～やや良	やや長	やや多

4 施 肥

(1) 育 苗

主に肥料配合済みの育苗培土が使用され、施肥量は1箱当たりN成分 1.3～1.5gである。また、苗追肥は主に粒状肥料（一部で液肥）により、田植え3～5日前に窒素成分で1箱当たり 1.5g程度が広く実施された。

(2) 基 肥

施肥体系は省力化が進み、全量基肥施肥栽培が75%を占めている。窒素成分の有機質割合では、化学肥料のみが50%で、有機質割合50%以上は45%であった。

(3) 穂肥・追肥

コシヒカリの分施栽培における1回目穂肥は、7月の寡照で葉色が低下せず見送った。登熟期間の高温による葉色の急激な低下が懸念されたほ場では、全量基肥施肥体系での追肥、分施栽培での3回目穂肥施用が行われた。

5 水管理

(1) 分げつ期

中干し盛期は6月11日で平年並み（平年±0日）であった。コシヒカリの中干し適期開始実施率は59%で、前年よりも7ポイント高かった。

梅雨入りは平年より遅く、6月の降雨量は平年比37%と少なかったため、中干しの効果は高かった。

表7 溝切り・中干しの状況（コシヒカリ）

	溝切り		中干し	
	時 期	実施率	盛 期	日数
本年	6月14日	85%	6月11日	10日
前年	6月15日	85%	6月10日	10日
平年	6月12日	80%	6月11日	10日

（巻農業普及指導センター調べ）

※中干しの盛期は管内全体の
50%が中干しに入った時期

(2) 幼穂形成期～出穂期

6月中旬以降は高温傾向で推移したことから生育が早まり、幼穂形成期は、こしいぶきが平年より3日早い6月30日、コシヒカリは平年より3日早い7月9日となった。新之助は7月の寡照の影響で平年より1日早い7月19日となった。

出穂期は、こしいぶきが平年より1日早い7月24日、コシヒカリは平年より1日早い8月3日、新之助は平年と同じ8月12日となった。

幼穂形成期頃の葉色は、7月の寡照の影響で、こしいぶき、コシヒカリ、新之助いずれも指標値比濃かった。

表8 幼穂形成期及び出穂期

	こしいぶき(月/日)			コシヒカリ(月/日)			新之助(月/日)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
幼穂形成期	6/30	6/30	7/3	7/9	7/10	7/12	7/19	7/20	7/20
出穂期	7/24	7/23	7/25	8/3	8/2	8/4	8/12	8/11	8/12

(巻農業普及指導センター調べ)

(3) 登熟期

登熟期間の長期にわたる異常高温に伴い飽水管理を長く継続した昨年と比べ、早生、中生の落水期は早まった。特に、コシヒカリでは8月25日以降に断続的に降雨があったことから、落水期は出穂後23日となったものの、ほ場は落水後も飽水状態を保っていた。

表9 落水期

項目 年次	早生		中生		晩生	
	盛期 (月・日)	同左出穂 後日数	盛期 (月・日)	同左出穂 後日数	盛期 (月・日)	同左出穂 後日数
本年	8月18日	25	8月26日	23	9月8日	27
前年	8月24日	32	8月31日	29	9月7日	27

6 除 草

(1) 耕起前除草

4月の降水量は平年より少なく、ほ場の乾燥が進んだため、耕起前除草剤の散布作業は計画どおりのスケジュールで実施されたものと推測された。

(2) 本田除草

田植え期間の降雨は平年並みであったが、強風の日があり、一部ほ場で除草剤の散布がやや遅れたところはあったものの、概ね適期に散布できたと推測された。除草剤の効果や適度な降雨により、藻類・表層剥離の発生は平年並であった。特異的に発生が目立った雑草は無く、除草剤抵抗性雑草は確認されなかった。

除草剤処理体系は、一発処理剤の使用を中心に、初期剤との組み合わせや中・後期剤との組み合わせが多い。使用薬剤は、経営規模の拡大に伴い、広拡散性剤やドローン適用剤といった省力散布剤が増加している。

表10 除草体系別実施面積

除 草 体 系	実施面積(ha)	同左比率(%)
① 初期剤 + 初中期一発剤	3,290	40
② 初中期一発剤 + 中・後期剤	2,060	25
③ 初中期一発剤のみ	1,640	20

(巻農業普及指導センター推測)

7 病害虫

(1) 主要病害虫の発生状況

ア 育苗期の病害発生は平年並～やや多であった。4月の高温・多照で細菌性病害やムレ苗、ヤケ苗への二次的な病害の発生が目立った。

イ いもち病の発生は少なかったが、新之助の一部ほ場において葉いもちの発生が確認された。

ウ 紋枯病は少発生であったが、早生の他げつ品種を中心に発生が確認された。

エ 中之口地区で墨黒穂病による等級格落事例があった。また、西川地区では、ほ場立毛段階で発病稲が確認されたほ場が見られた。7月の長期にわたる寡照と多雨が発生を助長したと考えられる。

オ 斑点米カメムシ類のアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメは、全域で確認された。

斑点米による格落ちは1.7%と前年より多かった。品種別では、こがねもち7.5%、ゆきん子舞5.3%、こしいぶき2.4%、コシヒカリ0.9%であった。地域別では、にいがた西で3.6%と多く、漆山2.2%、潟東2.0%、黒埼1.9%、巻1.6%、西川1.1%であった。岩室、中之口では、ともに0.1%と少なかった。

暖冬・少雪によりカメムシの越冬数が多く、除草や適期防除が不徹底なほ場や、共同防除が適期から外れる早生品種を中心に、カメムシ加害が多発したことが考えられる。

(数値はJA検査データ：主食用米の全検査量に対する割合)

表 11 主な病害虫の発生程度と特徴

病害虫名	発生程度	発生の要因及び特徴	主な発生地域
苗立枯病 細菌性病害 その他育苗障害	並～ やや多	・4月の高温・多照で、病害発生が助長された。 ・もみ枯細菌病がやや多発生 ・苗立枯病、ムレ苗が散見された	管内全域
葉いもち	少	・一部ほ場で稀発生（品種：新之助） ・7月の長期にわたる寡照、多雨で葉色が濃く、発生が助長された。	岩室、 にいがた西
穂いもち	—	・発生はほとんど見られなかった	—
紋枯病	少	・多げつ品種を中心に発生 ・8月の高温と降雨量が多いことで、発生ほ場では上位葉進展が助長。	管内全域
ごま葉枯病	少	・コシヒカリで確認されたが、被害無し	西川
墨黒穂病	多	・わたぼうし出荷米102袋で規格外発生（中之口） ・ほ場立毛段階で品種問わず発病稲が散見 ・7月の寡照、多雨で早生・中生品種での感染助長	中之口、西川
イネドロオイムシ	少	・発生はわずかに確認されたが、被害無し	西川

イネミズゾウムシ	少	・発生、被害はわずかに確認された	中之口、巻、岩室、西川
ニカメイチュウ	やや多	・6月下旬から平年より多く発生が確認されたが、被害は少ない	潟東、西川、岩室
セジロウンカ	並	・発生数に地域差があったが、被害無し	管内全域
ツマグロヨコバイ	並	・管内のほぼ全域で確認されたが、被害無し	管内全域
コバネイナゴ	並	・発生数は少なく、被害も少なかった	黒埼、巻、にいがた西、潟東、西川
イネツトムシ	少	・発生は少なく、被害も少なかった	管内全域
斑点米カメムシ類	並～ やや多	・市町村抽出調査では発生量は平年並 ・アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメは全域で発生確認 ・地域間差は大きい、斑点米による格落ちが目立った ・品種では、ゆきん子舞、こしいぶき、こがねもちで斑点米による格落ちが多かった	管内全域

(市町村抽出調査・巻農業普及指導センター調べ)

(2) 防除対策

共同防除は無人ヘリによる散布が主体となっている。防除体系は1回防除が大半であるが、採種ほのある潟東では全域で、岩室は直播栽培、中之口は早生品種を対象に2回防除を行っている。対象病害虫は全地区で斑点米カメムシ類を、一部地区でいもち病や紋枯病を加えている。

黒埼地区と西川地区では、大規模な共同防除が実施されていないため、斑点米発生防止対策の指導を重点的に行っている。

表 12 斑点米発生防止対策で重点的に指導した事例及び生産者の取り組み事例

項目	地域	具体的な指導内容、取り組み内容
指導機関の指導事例	黒埼地区 西川地区	・個人での薬剤散布や、畦畔・本田内除草の徹底によるカメムシ類の防除を啓発した。
生産者の取り組み事例	西川地区	・地区内の一部では、無人ヘリやドローンによる地域一斉防除を実施し、適期防除を徹底した。

表 13 地区別・時期別防除実施状況

市町村名		回	実施時期	防除形態	実施面積 (ha)	対象病虫害	使用薬剤
新潟市 (にいがた西)	全域	1	8/1	無人ヘリ	75	カメシ類・ウカ類他	スタークル1キOH粒剤
		1	8/5～8/7	無人ヘリ	1,359	カメシ類・ウカ類他	スタークル液剤10
		1	8/4	無人ヘリ	38	いもち病・紋枯病・カメシ類他	トップジンスタークルフロアブル
新潟市 (岩室)	全域	1	7/26～8/4	無人ヘリ	612	カメシ類・ウカ類他	スタークル液剤10
	直播	2	7/19	無人ヘリ	5	いもち病・紋枯病・カメシ類他	(BL以外) ヒーエイトモンカットフロアブル・トレボシエー
			8/4	無人ヘリ	5	カメシ類・ウカ類他	(BL以外) スタークル液剤10
		1	8/17	無人ヘリ	3	カメシ類・ウカ類他	(BL) スタークル液剤10
新潟市 (巻)	全域	1	7/25～8/6	無人ヘリ	1,127	カメシ類・ウカ類他・紋枯病	スタークル液剤10・バリダシエー
新潟市 (潟東)	全域	1	7/22～7/26	無人ヘリ	759		
				マルチローター	41	いもち病・紋枯病・カメシ類・ウカ類他	ダブールカットトレボシエーフロアブル・バリダシエー
				地上(背動散)	4		ダブールカットバリダトレボシエー粉剤3DL/ ダブールカットトレボシエーフロアブル・バリダシエー液剤5
		1	7/30～8/2	マルチローター	44		
				無人ヘリ	4	紋枯病・カメシ類・ウカ類他	バリダシエー・スタークル液剤10
		2	8/4～8/7	無人ヘリ	759		
				マルチローター	41	いもち病・カメシ類・ウカ類	ブラシソール・エクシードフロアブル
				地上(背動散)	4		ブラシントレボシエー粉剤DL/ブラシソール・エクシードフロアブル
新潟市 (中之口)	早生無人 ヘリ区域	1	7/21	無人ヘリ	178	いもち病・紋枯病・カメシ類他	トップジンスタークルフロアブル
				マルチローター	12		
		2	7/30	無人ヘリ	178	いもち病・カメシ類他	ブラシソールフロアブル
				マルチローター	12		
	基幹無人 ヘリ区域	1	7/31～8/2	無人ヘリ	527		
				マルチローター	30	紋枯病・カメシ類・ウカ類他	スタークル液剤10/バリダシエー
合 計					5,817	占有率(%)	
防除形態別実施面積・占有率(%)				一斉粒剤	0	0.0	
				無人ヘリ	5,629	96.8	
				マルチローター	180	3.0	
				地上防除	8	0.1	

(NOSAI 新潟県提供資料から抜粋)

8 収穫・乾燥・調製

(1) 収 穫

高温登熟、9月の高温への対応として、刈遅れ防止、適期収穫の啓発を行った。また、昨年度の成熟期の大幅な早まりへの対応を教訓に、乾燥・調製の受入れ準備を早めに行い、おおむね適期に収穫作業を開始できた。しかしながら、一部大規模経営体では、作付面積の大きいコシヒカリで、刈遅れによる品質低下が見られた。この解決には、作付計画の見直しによる根本的な解決策の実行が必要である。

7月の長期にわたる寡照の影響で節間が伸長し、全品種で稈長は長くなった。7月下旬から8月中旬までの少雨で早期倒伏は少なかったが、8月25日以降の断続的な降雨によって、コシヒカリを中心に徐々に倒伏程度は進み、刈遅れを助長した。

表 14 収穫最盛期

	早生	中生	晩生
本 年	9月7日	9月18日	9月30日
前 年	9月3日	9月14日	9月25日

表 15 倒伏程度別面積割合

(単位：%)

	無	軽	中	多～甚
本 年	33	15	17	35
前 年	49	21	22	8

(2) 乾燥・調製

調製作業及び清掃の不徹底が原因と思われる、もみ混入、もち米混入、もち品種のうるち米混入による格落ちが見られた。

9 直播栽培

(1) 直播栽培の状況

ア 直播栽培面積は、前年と比べ 47.6ha 増加した。内訳は、湛水直播で 12.5ha、乾田直播で 35.1ha 増加した。

イ 乾田直播は大幅に増加した。不耕起V溝直播栽培は年々増加傾向にあり、プラウ耕鎮圧体系、スリップローラーシーダーを用いる耕うん同時播種体系の乾田直播も新規で取り組む経営体がある。

ウ 直播栽培は、大規模経営体の作期分散の観点から重要な技術であるが、苗立ちの安定化が課題となっている。

表 16 直播栽培の年次推移

(単位：ha)

	H27	H28	H29	H30	R 元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
湛水直播	293.3	370.2	291.3	283.2	271.5	229.1	184.6	188.7	153.9	166.4
散播	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.5	1.5	2.8	1.9
条播	188.5	192.7	141.9	192.5	187.0	177.5	97.4	100.0	53.4	68.0
点播	104.6	177.5	149.5	90.6	84.5	51.6	86.7	87.2	97.7	96.5
乾田直播	0.0	1.0	0.0	2.0	3.8	20.0	25.9	36.4	47.0	82.1
合 計	293.3	371.2	291.3	285.2	275.3	249.1	210.5	225.1	200.9	248.5

※平成 28 年度から西区、西蒲区合計、それ以前は西蒲区のみ

(巻農業普及指導センター調べ)

(2) 主な動向及び課題

※項目 2～14 については、V溝、プラウ耕鎮圧体系の乾田直播栽培のデータを記載

項目	動 向	備 考
1 栽培農家	栽培面積面積は増加 特に乾田直播が増加	
2 基 肥	全量基肥の乾田直播用を使用 (湛水直播栽培は全量基肥の移植用を使用) 施肥窒素は移植並	高価な乾田直播用肥料に 替え、直播用肥料等やや安 価な肥料の適用が可能か
3 は種時期	4 月上旬で播種 (湛水直播は 5 月上旬)	天候により播種時期が限 られる
4 は種量	< V溝 > 8.4～3.7・6.0 (最高～最低・平均 (kg/10a)) < 鎮圧 > 6.5 (kg/10a)	
5 出芽までの 水管理	出芽揃いまで落水管理、2 葉期から湛水管理	

項目	動 向	備 考
6 苗立率	< V溝 > 57.5～26.0・41.1 (最高～最低・平均 (%)) < 鎮圧 > 20.5 (%)	
7 雑草防除	出芽前：非選択性除草剤(ラウンドアップ マックスロード) 湛水前：選択性除草剤(クリンチャーバース ME 液剤、バサグ ラン液剤、クリンチャー EW) 湛水後：一発処理剤	出芽前及び湛水前の液剤 散布には、ブームスプレー ヤーが必要
8 病虫害防除	共同防除(殺虫剤のみ 地域により紋枯病、いも ち病が追加)	
9 生育調節	中干し無し	
10 穂 肥	< V溝 > N 1.4～3.0 kg/10a (中間追肥 N 0～1.4 kg/10a) < 鎮圧 > N 1.4 kg/10a	中間追肥の判断方法
11 出穂期	(月・日 移植との差) V溝乾直コシヒカリ 8・11 +8日 鎮圧方式にじのきらめき 8・14 +9日	※Vコシ:管内平均との比 較 ※鎮にじ:指針(農研機構) との比較
12 成熟期	(月・日 移植との差) V溝乾直コシヒカリ 9・20 +9日 鎮圧方式にじのきらめき 9・26 +8日	倒伏なし
13 収 量	< V溝 > 618～496・544・移植並の収量 (最高～最低・平均 (kg/10a)・移植との差) < 鎮圧 > 685 (kg/10a)	鎮圧体系の調査までは、前 年のこぼれ粍が発芽した 個体も含まれている可能 性があり、混種回避の対策 が必要
14 品 質	(管内の動向・移植との差) 移植並～やや劣る(その他未熟粒)	穂数が確保できなかった 場合に一穂粒数が多くな り、移植に比べ品質が不安 定になる
15 その他	(直播栽培の主な品種) コシヒカリ、ゆきん子舞、こしいぶき、にじのき らめき、新潟次郎	

Ⅲ 令和6年度稲作の結果と次年度対策

1 管内概況

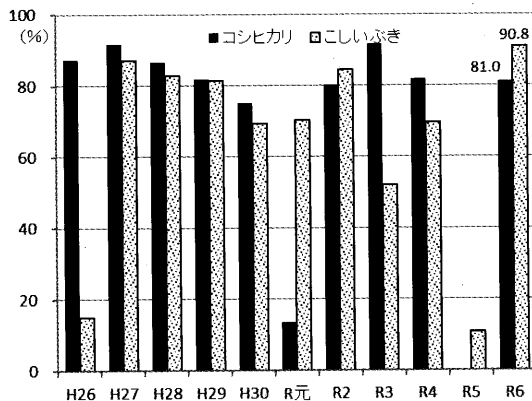


図1 巻普及センター管内1等級比率

※12月末現在のJA検査結果

平成27年度以前は西蒲区のみ、平成28年度以降は西区の検査結果を含む

令和6年産米の作況指数は、新潟県は「98」のやや不良で、下越も「97」のやや不良となった。

県内うるち米1等級比率は、77.5%（12月末日現在、農林水産省農産物検査結果速報値）と前年差 +61.7ポイントであった。

管内の1等級比率は、JA調べで主食用うるち米82.3%（前年差 +69.6ポイント）、コシヒカリ81.0%（前年差 +80.8ポイント）、こしいぶき90.8%（前年差 +79.9ポイント）と大幅に回復した。新之助は99.3%（前年差 +1.2ポイント）と前年並に高く維持された。

2 品種別概況

(1) コシヒカリ

- 作柄【不良】穂数が少なく、一穂粒数はやや少～並だったため、㎡当たり粒数は少～やや少となり、さらに登熟歩合はやや低い～並、千粒重がやや小～並。
- 品質【並～やや良】過剰粒数の是正、後期栄養確保に向けた追加穂肥対応の実施、登熟期間の飽水管理、適期収穫によって整粒歩合が高まり、1等級比率は昨年より大きく回復。玄米タンパク含有率は平年並。

ア 生育の特徴

- ・草丈は、6月第2半句以降の高温の影響で急激に伸長した。また7月の寡照の影響で下位節間が伸長し、7月30日調査では指標値より長くなった。
- ・茎数は、5月8日の低温・強風、5月16～17日の強風、5月下旬～6月第1半句の低温により、下位分げつの発生が抑制された。6月第2半句以降の高温の影響で茎数は急激に増加したが、ワキの発生の影響もあり最高茎数は指標値より少なく、以降も少なく推移した。
- ・葉数は、ほぼ指標値並に推移したが、7月の寡照の影響で個体ごとに最終葉数のバラつきがみられた。
- ・葉色は、6月10日は指標値より淡く、6月20日から6月30日にかけて指標値並となった。7月が寡照であったことから7月10～30日は指標値より濃く推移した。適正な穂肥対応で出穂期は指標値並となり、以降徐々に退色したが、出穂後25日調査では指標値より濃くなった。

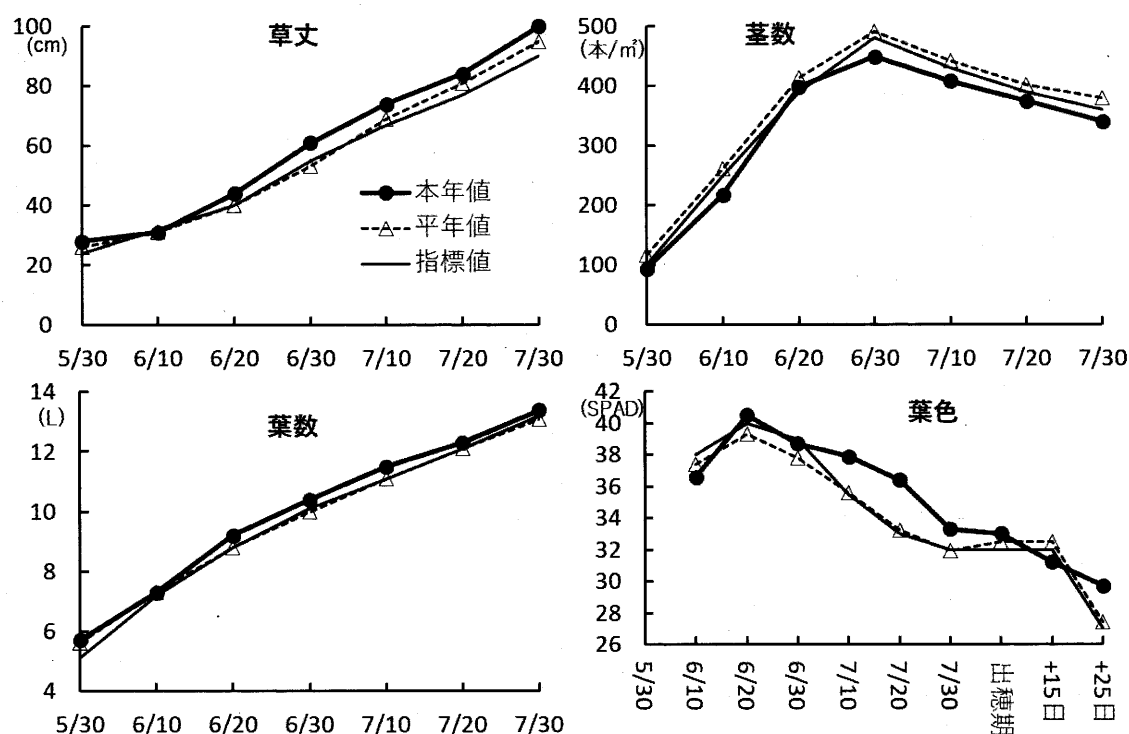


図2 生育の推移 ※J A、普及指導センターの調査データより作成

イ 中干しの状況

- ・ 5月30日の茎数はやや少なかったが、田植え盛期での中干し開始適期の実施率が59%と前年より高かった。6月は降水量が少なく、適期に中干しを開始したほ場では、中干し効果が発揮され、最高茎数は指標値よりやや少なかった。

表1 管内平均の中干しの実施状況（コシヒカリ）

項目	本年	前年
田植え盛期	5月4日	5月4日
田植え盛期での中干し開始適期	6月11日	6月10日
田植え盛期での中干し開始適期の実施率	59%	52%

※J A、普及指導センター調べ

ウ 収量及び分解調査

- ・ 穂数は前年比少なく、一穂粒数が前年比やや少ない～並のため、m²当たり粒数は前年比少～やや少となった（指標値比では並）。
- ・ 登熟歩合は前年比やや低い～並で、千粒重は前年比やや小～並のため、収量は前年比少なかった。
- ・ 粒厚は前年に比べやや厚い傾向となった（2.1mm未満の割合がやや少なく、2.1mm以上の割合がやや多い）。
- ・ 整粒歩合は前年値よりも高く、未熟粒の発生は少なかった。
- ・ 玄米タンパク含有率は前年並であった。

表2 収量調査結果

	坪刈穂数 (本/㎡)	一穂粒数 (粒)	㎡当たり粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	坪刈収量 (kg/10a)
本年値	345	78	26,900	85.6	21.5	484
平年値	383	80	30,500	84.7	21.8	516
指標値	350	80	28,000	87.0	22.2	540

※普及指導センター調査ほ4カ所平均

表3 粒厚分布 (%)

	>2.2mm	>2.1mm	>2.0mm	>1.9mm	>1.85mm	1.85mm<
本年値	5.0	28.4	46.4	13.1	2.4	4.7
平年値	3.3	24.3	47.6	16.6	3.2	5.0

※普及指導センター調査ほ4カ所平均

表4 玄米品質・成分 (%)

	整粒歩合	玄米タンパク含有率
本年値	72.5	5.5
平年値	61.3	5.4

※普及指導センター調査4カ所平均

※整粒歩合：粒数%

※玄米タンパク含有率：玄米水分15%換算値

※分析機：整粒歩合 …本年値 サカ RGQI100B 農検検量線、
 平年値 サカ RGQI10B(～R4)、RGQI100(R5)新潟検量線
 玄米タンパク含有率…シズカ TM3500

エ まとめ

- ・茎数は、早過ぎる播種期及び4月の高温による苗の徒長・老化、5月8日の低温・強風、5月16～17日の強風による初期生育の抑制、また5月下旬～6月第1半旬の低温により下位分げつの発生が抑制された(特に深植えほ場は顕著)。6月第2半旬以降の高温の影響で茎数は急激に増加したが、6月の少雨で中干し効果が高まったことや、ワキの発生の影響もあり最高茎数は平年比少なかった。以降も少なく推移し、穂数は平年より少なかった。
- ・一穂粒数は、7月の寡照で葉色が濃く穂肥が遅め・少なめだったことから茎数不足の補償作用が働かず、平年比やや少ない～並となった。
- ・㎡当たり粒数は、穂数が少なかったことが影響し、平年比やや少ない～並となった。
- ・登熟歩合は、高温対策として追加穂肥の実施や飽水管理の徹底により後期栄養は確保できたが、7月の寡照の影響や、それに伴う下位節間の伸長による倒伏のため、平年比やや低い～並となった。また倒伏が早かったほ場では、くず米の発生が多くなった。
- ・千粒重は、登熟期間の高夜温により、平年比やや小～並となった。
- ・作柄は、平年に比べ穂数が少なかったことを筆頭に、一穂粒数・登熟歩合・千粒重と全ての収量構成要素がマイナス要因となり、不良となった。
- ・品質は、過剰粒数が回避されたこと、高温対策(穂肥対応や水管理)が徹底されたことにより、乳心白等の未熟粒の発生が抑えられ、平年より整粒歩合が高まった。

その結果、管内のコシヒカリ 1 等級比率は 81.0%と前年度の 0.2%から大きく回復した。

ただし、過剰基肥や遅い中干しにより、穂数（ m^2 あたり粒数）が多かったほ場では、高温登熟による乳心白粒の多発で等級低下が見られた。また、刈遅れたほ場でも等級低下が見られた。

(2) こしいぶき

○作柄【不良～やや不良】穂数は並～やや多く、一穂粒数はやや多かったため、 m^2 当たり粒数はやや多～多となったが、登熟歩合は低い～やや低い、千粒重もやや小～並。

○品質【やや良】高温に対応した登熟期間の飽水管理及び適期収穫が徹底されたことから整粒歩合が高まり、1 等級比率は昨年より大きく回復。玄米タンパク含有率は平年並。

ア 生育の特徴

- ・草丈は、6 月第 2 半旬以降の高温の影響で急激に伸長した。
- ・茎数は、5 月 8 日の低温・強風、5 月 16～17 日の強風、5 月下旬～6 月第 1 半旬の低温により、下位分げつの発生が抑制された。6 月第 2 半旬以降の高温の影響で急激に増加したが、ワキの発生の影響もあり最高茎数は指標値より少なく、以降も少なく推移した。
- ・葉数は、ほぼ指標値並に推移した。
- ・葉色は、全体的に指標値・平年値より濃く推移し、特に 7 月が寡照であったことから退色が鈍く、7 月 10～20 日は特に濃く推移した。適正な水管理で出穂期および出穂後 15 日まで濃く推移した。

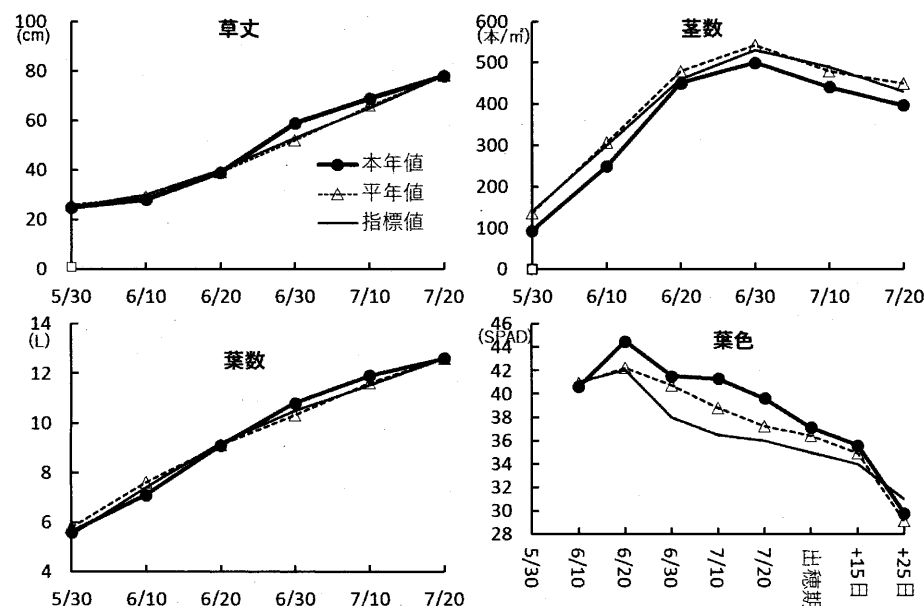


図3 生育の推移

※ J A、普及指導センターの調査データより作成

イ 収量構成要素及び品質

- ・穂数は平年並～やや多い、一穂粒数は平年比やや多いため、 m^2 当たり粒数は平年比やや多～多くなり、指標値比も多くなった。
- ・登熟歩合は平年比低い～やや低く、千粒重は平年比やや小～並のため、収量は平年比不良～やや不良であった。
- ・粒厚は、平年と比べ2.1～2.2mmの割合が高くやや厚い傾向となった。千粒重が大きくないことから、粒長あるいは粒幅が短かったと推察される。
- ・整粒歩合は平年値よりも高く、未熟粒の発生は少なかった。
- ・玄米タンパク含有率は、平年並であった。

表5 収量調査結果

	坪刈穂数 (本/ m^2)	一穂粒数 (粒)	m^2 当たり粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	坪刈収量 (kg/10a)
本年値	417	77	32,100	87.2	21.5	564
平年値	402	75	30,000	86.6	21.8	578
指標値	400	70	28,000	90.0	22.0	540

※本年値及び近年値はJ A・普及センター調査ほの平均値

※近年値は平成28年から令和5年までの平均

表6 粒厚分布 (%)

	>2.2mm	>2.1mm	>2.0mm	>1.9mm	>1.85mm	1.85mm<
本年値	18.0	42.1	30.0	6.3	1.2	2.4
平年値	9.5	40.0	38.2	8.3	1.5	2.5

※本年値及び近年値はJ A・普及センター調査ほの平均値

※近年値は平成28年から令和5年までの平均

表7 玄米品質・成分 (%)

	整粒歩合	玄米タンパク含有率
本年値	70.6	5.9
平年値	62.1	6.0

※本年値及び近年値はJ A・普及センター調査ほの平均値

※近年値は平成28年から令和5年までの平均

※整粒歩合：粒数% 分析機は本年値 ㄆㄆ RGQI100B 農検検量線、
近年値 ㄆㄆ RGQI10B(～R4)、RGQI100B(R5)新潟検量線

※玄米タンパク含有率：%、玄米水分15%換算値 分析機はｼｽﾁﾑ TM3500

ウ まとめ

- ・茎数は、早すぎる播種期及び4月の高温による苗の徒長・老化、5月8日の低温・強風、5月16～17日の強風による初期生育の抑制、また5月下旬～6月第1半旬の低温により下位分げつの発生が抑制された（特に深植えほ場は顕著）。6月第2半旬以降の高温の影響で茎数は急激に増加したが、6月の少雨で中干し効果が高まったことや、ワキの発生の影響もあり最高茎数は平年比少なく、以降も少なくて推移した。しかし、7月の寡照で葉色が濃く推移し、栄養状態が良かったため有効茎歩合が高まり、穂数は平年比並～やや多くなった。
- ・一穂粒数は、7月の寡照で葉色が濃く良い栄養状態を維持できたため、平年比やや多くなった。
- ・㎡当たり粒数は、穂数が平年比並～やや多く、一穂粒数が平年比やや多かったことから、平年比やや多～多（指標値比多）となった。
- ・登熟歩合は、高温対策として飽水管理の徹底で後期栄養を良好に保ったが、粒数が多かったことにより、平年比低い～やや低くなった。
- ・千粒重は、登熟期間の高夜温により平年比やや小～並となった。
- ・作柄は、㎡当たり粒数は平年よりやや多かったが、登熟歩合が低く、千粒重もやや小さかったため、平年比不良～やや不良となった。
- ・品質は、高温に対応した水管理が徹底されたことや適期に収穫されたため、乳心白等の未熟粒の発生が抑えられ、平年より整粒歩合が高まり、管内の1等級比率は、90.8%と前年度の10.9%より大きく回復した。

(3) 新之助

- 作柄【やや不良～並】穂数は平年並であったが、一穂粒数はやや少なく、㎡当たり粒数はやや少、登熟歩合はやや高い、千粒重はやや小～並。
- 品質【やや良～良】適正粒数の確保に加え、適正な穂肥対応及び適期収穫が行われ、未熟粒や胴割粒による格落ちはごくわずか、1等級比率は近年値以上。一部地域で多肥や調製不備が原因と思われる格落ちがあった。玄米タンパク含有率も近年値並だった。

ア 生育の特徴

- ・草丈は、6月第2半旬以降の高温により、指標値比「やや長い」または「長い」で推移した。7月の寡照も草丈の伸長に作用した。
- ・茎数は、7月1日の最高分げつ期までは指標値並に確保された。7月10日以降は近年値並で、指標値と比べやや少なく推移した。
- ・葉数は指標値並で推移した。
- ・葉色は、7月の寡照で7月10、20、30日は指標値と比べ濃く推移した。8月は高温多照が続き、出穂期と出穂後15日の葉色は指標値よりやや淡かったが、適正な穂肥対応と飽水管理の徹底によって葉色が維持され、出穂期25日後には指標値比やや濃かった。

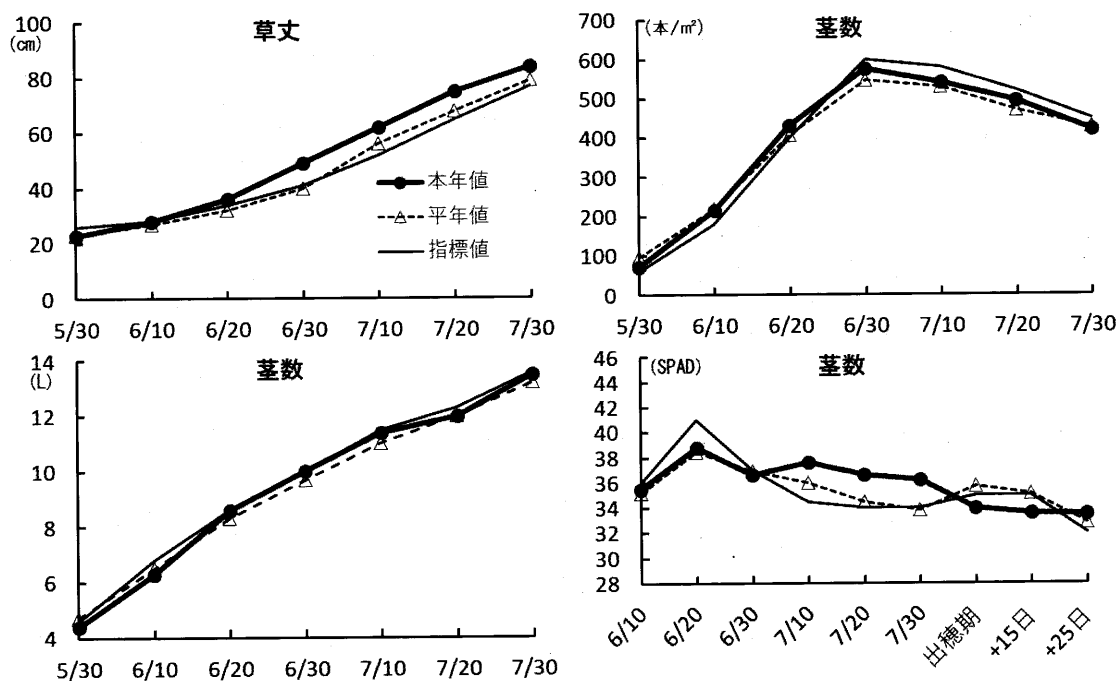


図4 新之助の生育経過 ※JA、普及指導センターの調査データより作成

イ 収量構成要素及び品質調査

- ・穂数は近年並で、一穂粒数は近年比やや少なく、 m^2 当たり粒数は近年比やや少なくなったが、指標値並となった。
- ・登熟歩合は近年値及び指標値比やや高く、千粒重は近年及び指標値比やや小～並であった。
- ・ m^2 当たり粒数と千粒重は平年より少ないが、登熟歩合が高かったため、収量は近年比やや少～並になった。
- ・粒厚分布は2.2、2.1mm以上の割合が高くなり、近年値に比べ粒厚は厚く、精玄米重歩合もわずかに高かった。
- ・機器分析による整粒歩合は70%以上で、未熟粒及び胴割粒も少なかった。玄米タンパク質含有率は近年並であった。

表8 収量調査結果

	坪刈穂数 (本/ m^2)	1穂粒数 (粒)	m^2 当たり粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	坪刈収量 (kg/10a)
本年値	402	72.3	28,738	86.8	22.5	571
近年値	399	76.0	30,272	85.4	23.4	584
指標値	400	70.0	28,000	82.0	23.5	540

※調査値はJA、普及センター調査ほ7地点の平均値、近年値はH28～R5

表9 粒厚分布(%)

	>2.2mm	>2.1mm	>2.0mm	>1.9mm	1.9mm<	精玄米重歩合
本年値	6.8	36.3	43.4	9.3	4.2	95.8
近年値	5.5	30.3	45.8	12.9	5.5	94.5

表10 玄米品質・成分(%)

	整粒歩合	未熟粒	胴割粒	玄米タンパク含有率
本年値	78.3	20.8	0.2	5.3
近年値	61.5	32.3	1.2	5.4

※整粒歩合：粒数% ※玄米タンパク含有率：玄米水分15%換算値

※分析機：整粒歩合…本年値 サタケ RGQI100B 農検検量線

近年値 サタケ RGQI10B(～R4)、RGQI100B(R5)新潟検量線

玄米タンパク含有率…シズオカ TM3500

ウ まとめ

- ・初期生育は6月第2半旬以降の高温気象や適正な水管理により促進され、分げつ期の茎数は指標値並に確保された。中干しは適期に開始され、最高茎数は指標値並となった。以降茎数は平年値並、指標値比やや少なく推移したが、有効茎は確保されており、穂数は指標値並となった。
- ・7月の寡照の影響で穂肥施用が遅めの対応となったことから、一穂粒数は近年比やや少なく、 m^2 当たり粒数も近年比やや少なくなったが、指標値並に確保された。
- ・一部では、過剰基肥と7月の寡照が相まって下位節間が長く伸長したことにより、早期に倒伏したほ場が見られた。
- ・適正な穂肥と水管理で指標値に近い葉色値を維持できたことから、登熟歩合はやや高かった。登熟期間の夜温が高く、千粒重は近年値及び指標値を下回った。
- ・ m^2 当たり粒数はやや少なく、千粒重はやや小さかったが、登熟歩合がやや高かったため、収量は近年値に近い値を確保できた。
- ・粒厚は近年値比やや厚いが、千粒重が近年値より小さいため、粒の長さまたは幅が短いと考えられる。
- ・登熟期間は高温であったが、品種の高温耐性に加え、適切な穂肥診断および水管理により高い整粒歩合が確保された。コシヒカリより優先して収穫する生産者もあり、胴割粒による等級低下はごくわずかであった。
- ・管内の新之助1等級比率は99.3%となり、近年値(96.3%)より3.0ポイント高かった。

3 格落要因

- コシヒカリ：全検査量に対する割合の6.4%が「心白粒」、5.1%が「充実度」、4.0%が「除青未熟」
- こしいぶき：同割合の2.4%が「部分カメ」、2.3%が「充実度」、2.2%が「除青未熟」
- 新之助：同割合の0.5%が「充実度」、0.1%が「胴割粒」、0.1%が「もみ混入」

(1) 被害粒の発生要因

ア 充実度、除青未熟

- (ア) 初期生育の停滞や7月の日照不足等の影響により、茎質が悪く、甚大な倒伏が起こり、登熟不良となった。
- (イ) 基肥過剰、中干しの遅れなどにより籾数が過剰となったほ場では、粒の肥大が悪く、品質低下につながった。

イ 心白粒

- (ア) 7月から9月にかけて、平年値を上回る高温傾向の気象により、デンプン転流阻害が発生した。こしいぶき、コシヒカリでは、出穂後20日間の平均気温が白未熟粒の発生しやすい27.0℃を上回っていた。
- (イ) 基肥過剰や中干しが遅れたほ場では、籾数が過剰となり発生を助長した。

ウ 部分カメ

- (ア) 暖冬のため平年より斑点米カメムシ類の越冬数が多く、畦畔及び本田除草や本田内の薬剤防除が不徹底なほ場で被害が発生した。
- (イ) 共同防除は中生の防除適期に実施されているケースが多く、共同防除実施地区でも、早生を中心に被害が目立った。

(2) 登熟期間の気温

ア 登熟期間の気温の推移

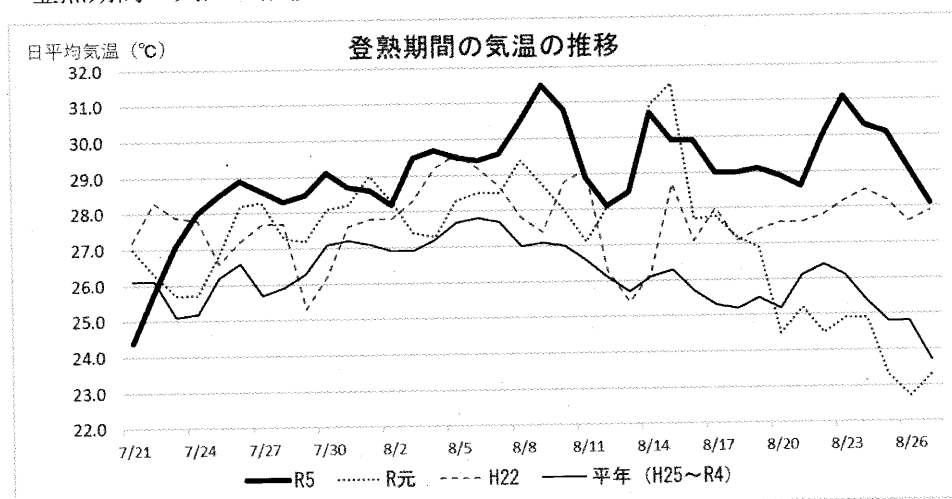


図5 登熟期間の気温の推移

イ 登熟期間の気温と1等級比率

コシヒカリについて、品質に大きな影響を及ぼす登熟期前半（出穂期＋5～24日後）の気温が、令和6年度は高かったが、適正に近い粳数であったこと、適切な栽培管理が行われたことにより、推測値よりも高い1等級比率が確保された。

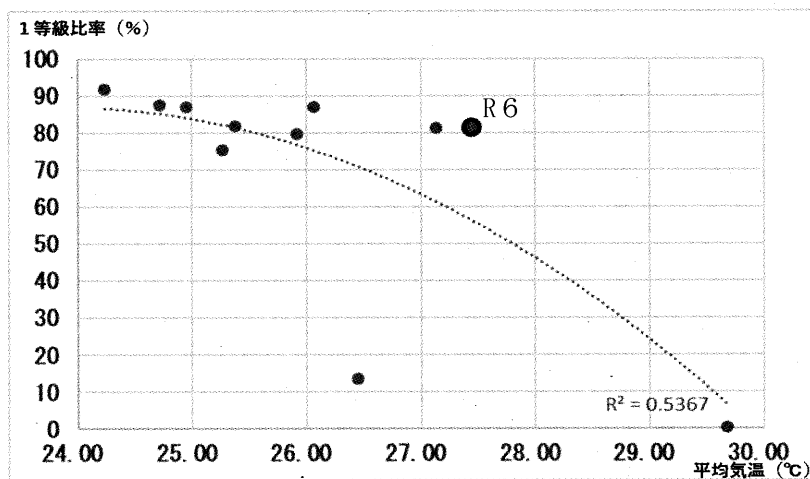


図6 登熟期前半（出穂期＋5～24日後）の平均気温と1等級比率（コシヒカリ）

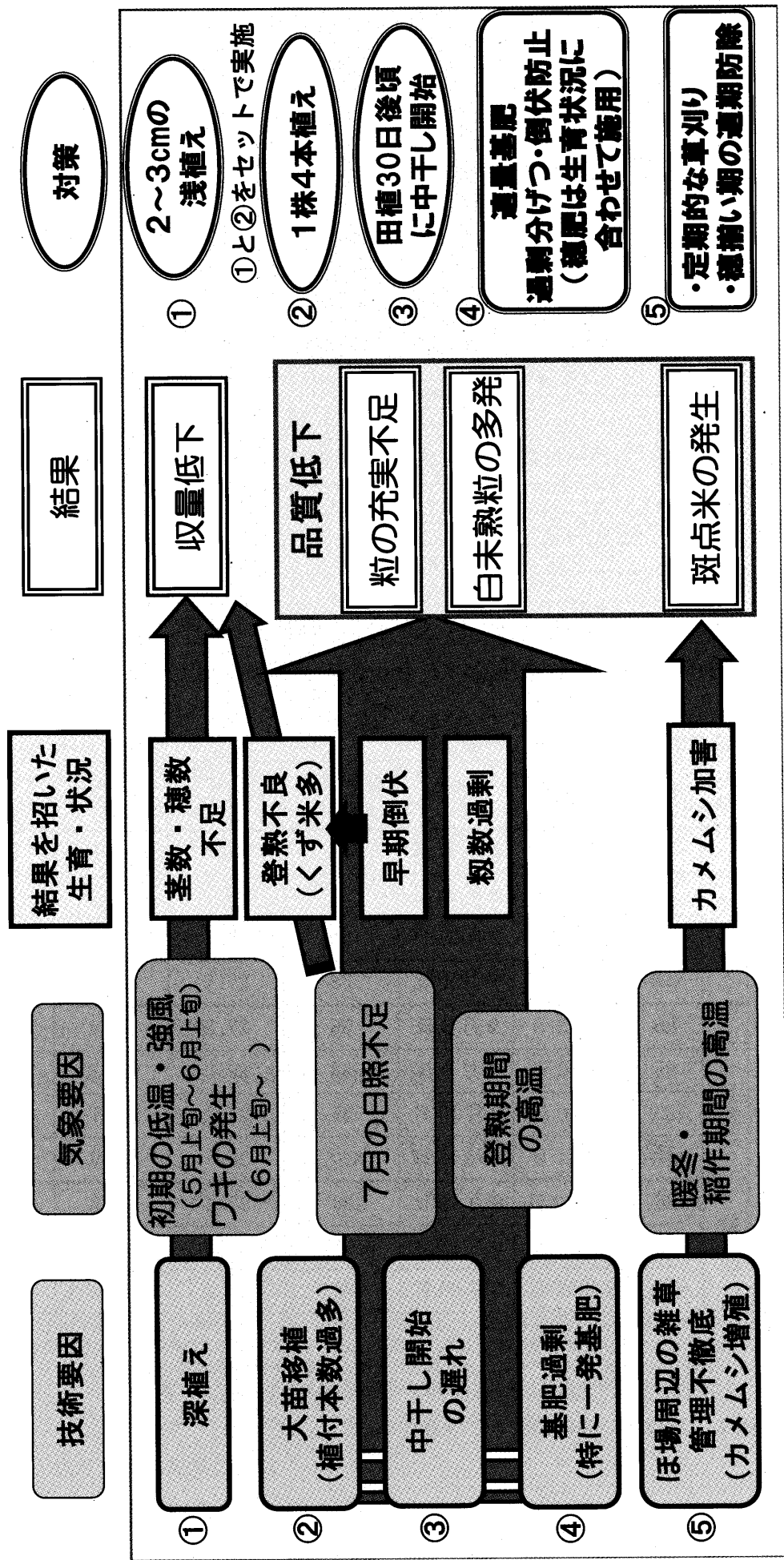
ウ 品種別の登熟気温と1等級比率

品種	年度	出穂期	成熟期	登熟日数 (日)	+1～20 平均気温 (°C)	+5～24 平均気温 (°C)	1等級比 率 (%)
こしいぶき	R6	7月24日	8月27日	34	27.3	27.2	90.7
	R5	7月23日	8月25日	32	29.2	29.4	10.9
	H22	7月28日	8月31日	34	27.7	27.9	9.6
	平年	7月25日	9月1日	38	27.1	26.9	61.2
コシヒカリ	R6	8月3日	9月8日	36	27.3	27.4	81.0
	R5	8月2日	9月4日	33	29.6	29.7	0.2
	H22	8月6日	9月10日	35	27.7	27.7	12.7
	平年	8月4日	9月13日	40	26.5	25.9	69.0
新之助	R6	8月12日	9月19日	38	27.4	26.8	99.3
	R5	8月11日	9月16日	36	29.2	28.8	98.1
	平年	8月12日	9月26日	45	25.4	25.1	96.3

※成熟期は出穂期からの積算気温が、こしいぶき+925℃、コシヒカリ+950℃、新之助+1000℃となった日。
出穂期＋1～20日の平均気温が27℃以上になると、立毛胴割や白未熟粒の多発生を誘発する。
出穂期＋5～24日の平均気温が26℃以上になると、基部未熟粒が急激に増加する。
平年値は過去10年平均値を使用（出穂期の平年値は過去9年、新之助は過去8年）

図7 品種別の登熟期間と1等級比率

4 令和6年産米の収量・品質に影響を及ぼした要因と対策（コシヒカリ）



5 次年度技術対策

<栽培管理の目標>

令和気象に対応したコンパクトなイネづくり「適正籾数で登熟向上」

●「4本・3cm 植え」「適量基肥」でスタート

●「黄化籾9割の適期収穫」でゴール

(1) 異常気象への万全な対応

- ◎は種・移植時期の分散や直播栽培並びに複数品種を取り入れた異常気象に対するリスクの分散と適期作業の実施
(成熟期から1週間以内で収穫可能な作業分散)
○異常気象に関する情報、栽培管理情報の積極的な入手

(2) 全品種共通の栽培管理

ア 根圏拡大と土づくり(ケイ酸施用)	○稲わら・もみ殻の秋すき込み(ひこばえによるワキ対策) ◎堆肥・土づくり肥料(ケイ酸肥料)の施用 ・ケイ酸肥料の中間追肥(前秋、春未施用時) ○耕うん作業で耕深15cmの確保
イ 適正生育量の確保(籾数過剰防止)	★適量基肥で適正籾数・生育量の確保 (籾数過剰、倒伏の防止) ◎適期の中干し開始 ○溝切りの実施(緊急時の迅速なかん水)
ウ 初期生育促進による早期の良質茎確保	○健苗(20日苗)育成 ★小苗(1株4本)、適正深さ(2~3cm)の移植 ○田植え後の適正水管理 ・移植後はやや深水で保温的管理 ・活着後は浅水管理 ・一時落水によるガス抜き
エ 適正な穂肥と水管理による後期栄養確保	○適期の中干し終了(田面に小ヒビが入ったら終了) ○中干し後の適切な水管理(間断かん水から徐々に飽水管理へ移行) ◎生育診断に基づいた穂肥施用 ★高温・多照年は分施の3回目穂肥、全量基肥栽培の追加穂肥を施用(流し込み穂肥、一発穂肥の活用) ○幼穂形成期から出穂後25日まで飽水管理の徹底(こまめな水の入替え) ◎フェーン・異常高温時の一時湛水
オ 適期収穫と適正な乾燥・調製	★籾黄化率85~90%で収穫 ◎フェーン等気象情報に対応した適期収穫と胴割粒の発生を防止する乾燥作業 ○必要により、1.9mmふるいや色彩選別機の活用
カ カメムシ対策による斑点米発生防止	○本田内雑草の除去及び畦畔、周辺環境の定期的な除草 ○適期(穂揃い期)の本田薬剤防除

★ゴシック体：最重点項目、下線部：重点推進項目

(3) 新之助の栽培計画・管理

(2) に加えて下記内容も追加

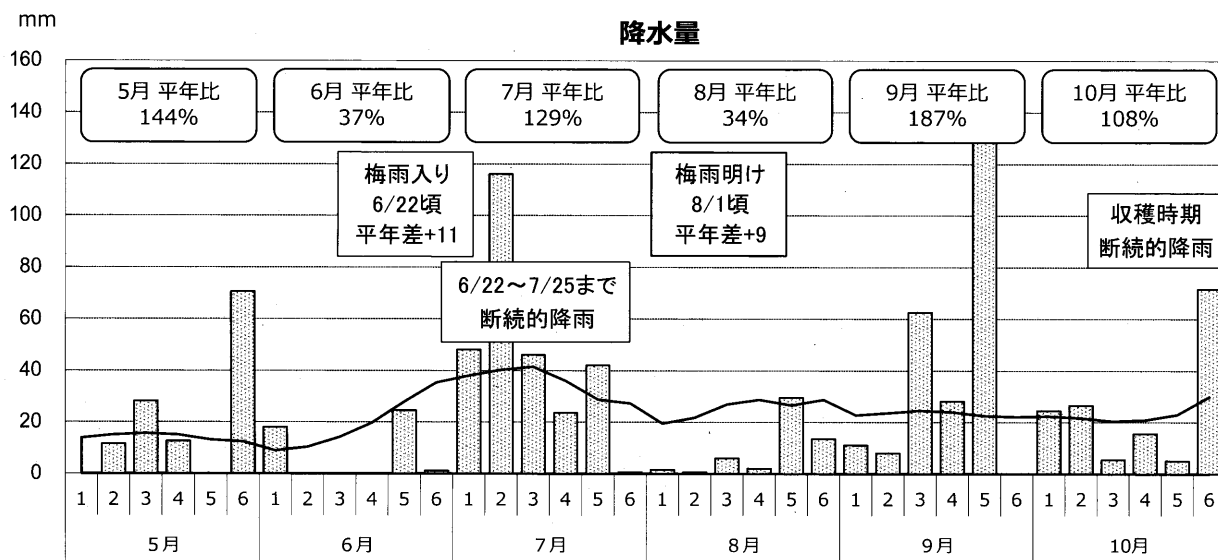
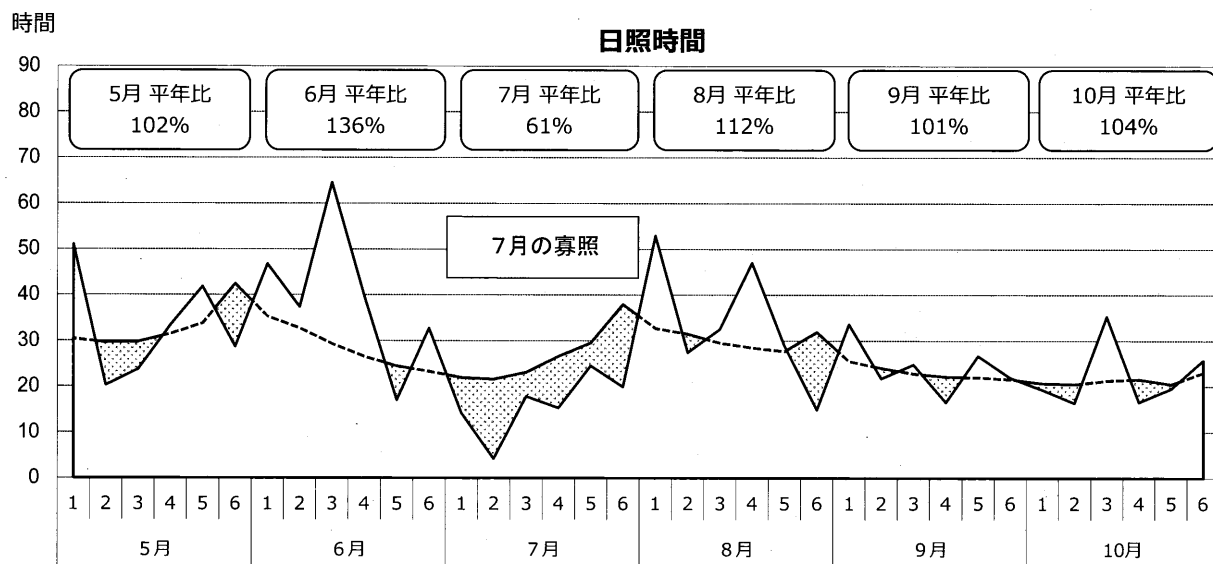
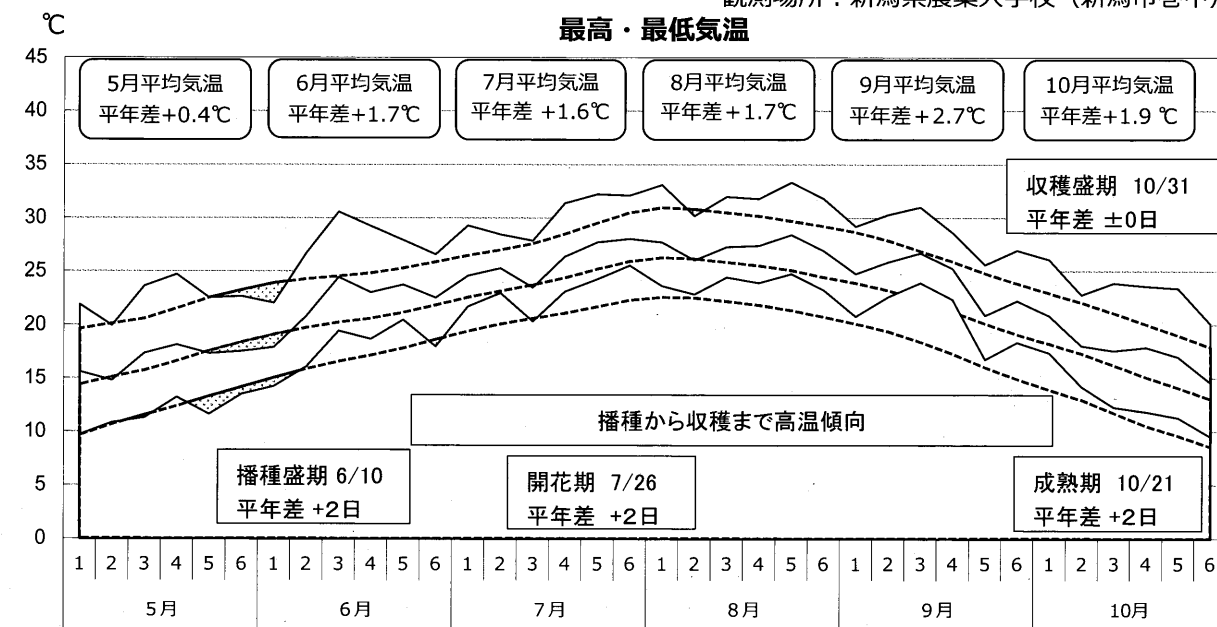
ア 適期収穫が可能な作付計画	○経営規模や機械施設の能力と作付品種構成を考慮した作付計画で、適期収穫を実践
イ 食味・品質基準が確保できるほ場選定	○生育過剰になりやすい大豆跡やほ場整備直後のほ場での作付回避 ○出穂後 25 日まで飽水管理が可能なほ場を選定
ウ 適期播種・適期田植え	○品種特性の発揮、作業競合回避（コシヒカリとの収穫競合）のため、4 月 20 日以降の播種及び 5 月中旬頃の田植えを目安に実施 ○収穫期の後ずれを回避し、安定した収量・品質を確保するため、5 月 25 日頃までに田植え作業を終了
エ 適正な穂肥と水管理による後期栄養確保	◎通水最終日に十分湛水し、出穂 25 日後まで（高温登熟年は出穂 30 日後まで）飽水管理を継続 ◎止水日以降の高温・乾燥気象を考慮し、水尻・暗渠の開放はできる限り遅らせる
オ 適期収穫と適正な乾燥・調製	★ <u>成熟期に達したら、できるだけ速やかに収穫する（他品種よりも優先的に収穫）</u> <u>成熟期頃にフェーン現象による高温や極度の乾燥条件に遭遇した場合は、その日から遅くとも 5 日以内に収穫</u> <u>（乾燥温度を下げ胴割粒発生防止を併せて実施）</u> ○調製は 1.9mm 以上のふるい目を使用するとともに、色彩選別機を活用し、必ず 1 等級に仕上げる
カ いもち病の防除徹底	○葉いもちの予防防除を必ず実施 ○ほ場観察を徹底し早期発見・早期防除の実施 ○原則として、穂いもちは予防防除を実施

★ゴシック体：最重点項目、下線部：重点推進項目

Ⅳ 令和6年産大豆作の概況と次年度対策

1 大豆作期間の気象

観測場所：新潟県農業大学校（新潟市巻甲）



2 作付状況と収量・品質

- (1) 作付品種は里のほほえみが73.5%、エンレイ23.5%、その他3%となっている。
- (2) 収量は157kg/10aとなり、農産物検査結果は里のほほえみの一部で3等になったが、特定加工が主体であった。

表1 作付面積と収量・品質

作付面積(ha)			1ha以上の団地		10a収量 (kg)	作柄の概況	
田	畑	計	団地数	面積 (ha)		収量	品質
590	0	590	108	313	157	やや不良	不良

※作柄概況は 良・やや良・並・やや不良・不良 の5段階 (巻農業普及指導センター調べ)

表2 品種別作付状況

	面積(ha)	比率(%)
エンレイ	139	23.5
里のほほえみ	433	73.5
青豆・その他	18	3.0
合計	590	100.0

(巻農業普及指導センター調べ)

表3 連作ほ場の経過年数

	面積(ha)	比率(%)
連作4年以上	168	28.4
連作2～3年	193	32.7
初作	229	38.9
合計	590	100.0

(巻農業普及指導センター調べ)

表4 主要品種別検査結果及び単収

	1等 (%)	2等 (%)	3等 (%)	特定 加工 (%)	規格外 (%)	単収 (kg/10a)	同左 平年値 (kg/10a)
エンレイ	0.0	0.0	0.0	99.7	0.3	176	166
里のほほえみ	0.0	0.0	16.4	83.6	0.0	157	176
全体	0.0	0.0	12.0	87.9	0.1	157	165

※単収は検査数量を作付面積で除した値(JA新潟かがやき検査結果から算出引用)

※持ち帰り検査数量含む

※平年値：過去8年平均(平成28年度～令和5年度)

3 収量および品質に影響した主な要因

(1) 作柄に及ぼしたプラスの要因

- ア 播種期の降雨が少なく碎土率が高まり、出芽苗立ち良好。
- イ 6月の高温により、初期生育良好。
- ウ 開花後、適度な降雨があり、干ばつ害回避。
- エ 里のほほえみの葉焼病の発生が遅く被害程度少。
- オ 青立ちの発生程度少。

(2) 作柄に及ぼしたマイナスの要因

- ア 7月の降雨により、2回培土率が低下。
- イ 子実肥大期(8月中旬から9月下旬まで)の高温による生育障害が発生。
- ウ 連作ほ場における地力低下を要因とする粒肥大不足、難防除雑草(帰化アサガオ類等)が発生。

4 気象経過と生育概況

(1) 播種時期

ア 播種盛期は6月10日と平年より2日遅れた。梅雨入り(6/22頃)が遅れ播種作業は順調であったが、小麦跡作の面積増加により播種終期は6月22日となった。

イ 6月3日以降梅雨入りまで無降雨で、ほ場が良く乾いたことから、播種作業時の碎土率が高まり出芽・苗立ちは良好で雑草の発生も少なかった。一部土壌水分が高く碎土率が低いほ場では出芽が不揃いであった。

表5 播種期

始期	盛期	終期
6月3日 (5月31日)	6月10日 (6月8日)	6月22日 (6月18日)

※()内は平年値

※平年値は、里のほほえみを作付開始した平成29年度～令和5年度の平均

(巻農業普及指導センター調べ)

(2) 伸長期～開花期

ア 播種後の生育は平年より良好であったが、7月第1半旬～第5半旬の降雨により生育は停滞し、一部のほ場で湿害症状が見られた。

イ 培土作業は6月第4半旬から開始されたが、梅雨入りの6月22日から7月25日の開花期頃まで断続的に降雨があり、ほ場が乾かず培土作業は停滞した。そのため、最終的な培土2回以上実施率は45%と低かった。

ウ 管内の開花期は7月26日頃で、平年より2日遅かった。

表6 主茎長の推移(単位: cm)

	6月下旬	7月下旬	8月下旬
本年	10	41	59
前年	12	39	52
平年	10	46	63

※本年値は生育調査ほ「里のほほえみ」

3地点、「エンレイ」2地点平均

(巻農業普及指導センター調べ)

(3) 着莢期～子実肥大期

ア 開花期～子実肥大始期にあたる7月第5半旬～9月第1半旬は高温であったが、落花や落莢は少なく、前年のような後発の開花や着莢抑制は見られなかった。

イ 7月第6半旬～8月第4半旬にかけて降水量は少なかったが、7月の降雨では場水分が確保されていたこと、8月14日以降適度に降雨があったため、干ばつ被害は回避された。そのため畦間灌水等の干ばつ対策の実施率は低かった。

ウ 子実肥大期にあたる8月中旬～9月下旬が高温のため、子実は小粒化し大粒比率は低かった。

エ 里のほほえみにおいて、8月下旬に葉焼病の発生が上位葉で散見されたが、風雨が少なかったことから発生程度は少なかった。

カ カメムシ類の発生は8月中旬頃から成熟期まで確認された。

キ ハスモンヨトウは、前年多発生した西川地区等で8月中旬頃から幼虫が散見されたが、被害程度は小さく、問題とはならなかった。

(4) 収穫時期

ア 青立ちの発生は少なく、成熟揃いはやや良かったが、黄化を経ずに落葉が始まったほ場が散見された。

イ 草丈が短いほ場が多く、最下着莢位置も低かった。

ウ 成熟期は10月21日(エンレイ標準播10月15日、麦跡10月18日、里のほほえみ10月23日)となり、エンレイは平年並みとなったが、里のほほえみは平年より2日程度遅れた。

エ 収穫始期は10月20日(平年差±0)で、以降断続的に降雨があったが、盛期は10月31日(同±0)、終期は11月10日(同-3)となった。

オ 里のほほえみでは皮切れ粒が、エンレイではしわ粒の発生が多かった。

カ 里のほほえみでは莢数が平年より多かったが、1莢粒数が少なく、百粒重が小さかったことにより、単収は157kg/10aとなった。エンレイは百粒重が小さく、特に粒厚7.3mm未満の小粒割合が高かったが、単収は176kg/10aとなった。

キ 全体では単収157kg/10aと平年比「やや不良」であった。品質は平年比「不良」で、格落要因はしわ粒であった。

表7 成熟期及び収穫期

成熟期	収穫期		
	始期	盛期	終期
10月19日 (10月19日)	10月20日 (10月20日)	10月31日 (10月31日)	11月10日 (11月13日)

※()内は平年値
※平年値は、里のほほえみを作付開始した平成29年度～令和5年度の平均

(巻農業普及指導センター調べ)

表8 里のほほえみ (調査ほ3地点)

ア 収量構成要素

	主茎節数 (節/m ²)	総節数 (節/m ²)	総莢数 (莢/m ²)	有効莢数 (莢/m ²)	節当莢数 (莢/節)	1 莢粒数 (粒)	粒数 (粒/m ²)	百粒重 (g)	坪刈収量 (kg/10a)
本年値	203	400	746	591	1.9	1.6	848	30.9	258
平年値	190	—	529	449	—	1.8	821	34.9	280
(平年比)	(107%)	—	(141%)	(132%)	—	(89%)	(103%)	(89%)	(92%)
前年値	211	479	722	606	1.5	1.5	984	31.1	310
(前年比)	(96%)	(84%)	(103%)	(98%)	(127%)	(107%)	(86%)	(99%)	(83%)

注) 坪刈り収量は、ふるい目 7.3mm 以上で、未転選、かつ被害粒を含む重量。

平年値は H29～R5 の平均

イ 品質

	大粒比率 (%)	整粒および被害粒等の区分				
		整粒 (%)	被害粒・未熟粒等 (上位 3 要因)			
			皮切れ粒	虫害粒	しわ粒	その他
本年値	78.2%	75.6%	9.4%	7.3%	3.8%	3.9%
平年値	90.5%	77.4%	4.7%	5.1%	2.7%	10.1%
(平年差)	(-12.3)	-1.8	(4.7)	(2.2)	(1.1)	(-6.2)
前年値	87.4%	71.1%	11.0%	8.6%	0.7%	8.6%
(前年差)	(-9.2)	4.5	(-1.6)	(-1.3)	(3.1)	(-4.7)

注) 平年値は、大粒比率 H29～R5 の平均、被害粒等は H30～R5 年の平均

表9 エンレイ (調査ほ2地点)

ア 収量構成要素

	主茎節数 (節/m ²)	総節数 (節/m ²)	総莢数 (莢/m ²)	有効莢数 (莢/m ²)	節当莢数 (莢/節)	1 莢粒数 (粒)	粒数 (粒/m ²)	百粒重 (g)	坪刈収量 (kg/10a)
本年値	148	270	580	553	2.1	1.9	585	23.3	137
平年値	173	—	611	592	—	1.8	945	30.4	279
(平年比)	(91%)	—	(95%)	(93%)	—	(106%)	(62%)	(77%)	(49%)
前年値	185	460	775	759	1.7	1.8	1042	24.9	268
(前年比)	(80%)	(59%)	(75%)	(73%)	(124%)	(106%)	(56%)	(94%)	(51%)

注) 坪刈り収量は、ふるい目 7.3mm 以上で、未転選、かつ被害粒を含む重量。

平年値は H25～R5 の平均、R3 は調査は無し

イ 品質

	大粒比率 (%)	整粒および被害粒等の区分				
		整粒 (%)	被害粒・未熟粒等 (上位 3 要因)			
			しわ粒	虫害粒	未熟粒	その他
本年値	6.3%	79.6%	14.6%	3.1%	2.1%	0.6%
平年値	59.6%	73.5%	8.2%	2.6%	6.7%	9.0%
(平年差)	(-53.3)	6.1	(4.7)	(0.5)	(-4.6)	(-8.4)
前年値	25.4%	71.6%	4.9%	5.1%	14.9%	3.5%
(前年差)	(-19.1)	8.0	(-1.6)	(-2.0)	(-12.8)	(-2.9)

注) 平年値は、大粒比率は H25～R5 の平均、被害粒等は H30～R5 の平均 (R3 は調査は無し)

5 大豆安定生産に向けた重点事項

(1) 連作障害回避対策の徹底

ア ブロックローテーションの推進

イ 連作ほ場における生育量の確保（堆肥等有機質資材の施用、緩効性肥料の施用）

(2) 排水対策

ア 周囲明渠、弾丸暗渠の早期施工（隣接水田入水前まで）

イ 畦間と明渠の確実な連結及び定期的な点検・整備による排水経路の確保

ウ 暗渠がない場合は、ほ場内排水溝の設置と、明渠との確実な連結

(3) 適期は種

品種に応じた播種期・は種密度による適正生育量の確保と裂皮防止

（里のほほえみ：6月以降播種）

(4) 干ばつ対策

ア 高温障害軽減のための根域確保を目的とした培土の徹底

イ 梅雨明けから子実肥大盛期（9月中旬頃）までの間、干ばつが懸念される場合、

暗渠閉栓や畦間かん水で土壌水分を維持し、着莢や粒肥大を促進

(5) 雑草防除

ア 中耕・培土の適期2回実施及び草種に応じた除草剤の利用

イ 収穫前の雑草、青立ち株の抜き取り徹底（毒素を含む有害雑草は確実に除去）

ウ 連作ほ場における帰化アサガオ類等の難防除雑草対策の実施

(6) 病虫害防除

ア 子実害虫の適期防除の徹底による被害粒発生防止

イ カメムシ多発地域における適正防除の実施

ウ 「里のほほえみ」における葉焼病発生の早期発見と適期防除の実施

(7) 適期収穫

ア 黄葉期以降のほ場観察による収穫適期判定と作業計画の早期策定

イ 大豆の成熟期に応じた乾燥調製施設の計画的な稼働

ウ 雑草・青立ち株の除去及び適正な刈高さでの収穫（コンバインへの土砂掻き込み防止）による汚損粒の発生防止

V 令和6年度麦作の生育状況と作柄

1 令和6年産麦の作柄概況

(1) 作付面積と収量・品質

麦種別	作付面積 (ha)	収穫面積 (ha)		推定収量 (kg/10a)	作柄概況	
					収 量	品 質
大麦	合計：9ha 水田：9ha 畑：0ha	ゆきはな六条	9.1ha	353kg	並	並
小麦	合計：57ha 水田：57ha 畑：0ha	夏黄金 ゆきちから	51.1ha 6.4ha	422kg 460kg	やや良 良	並 並

※推定収量は、検査数量を収穫面積で割って算出

(巻農業普及指導センター調べ)

※作柄概況は良、やや良、並、やや不良、不良の5段階

(2) 連作ほ場の経過年数別面積割合

	作付面積(ha)	割合(%)
連作4年以上	16.1ha	24.2%
連作2～3年	18.5ha	27.8%
初作	32.0ha	48.0%

(3) 前作水稻の品種面積割合

品種名	作付面積(ha)	割合(%)
早生品種	6.5ha	42.2%
コシヒカリ	7.9ha	51.3%
その他	1.0ha	6.5%

注；前作物の有無にかかわらず、前年の冬作に麦を作付した場合は連作とみなす

2 麦の作柄・品質に影響したと考えられる要因

(1) 作柄・品質に及ぼしたプラスの要因

- ア 排水対策の徹底および排水性の良い大豆跡作栽培の実施
- イ 生育診断に基づく適期追肥の実施
- ウ 少雪のため根雪期間が皆無

(2) 作柄・品質に及ぼしたマイナスの要因

- ア 一部生産者での出芽ムラにより、収量・品質の低下

3 令和7年産麦の作付概況（令和6年秋は種）

(1) 作付状況

麦種	作付面積 (ha)	1ha 以上 団地 (ha)	前作種類別面積(ha)				は種様式別面積(ha)			
			稲跡	麦跡	大豆跡	野菜跡	ドリル		全面 全層	表層
							平畦	畦立		
大麦	9	8	4	-	5	-	9	-	-	-
小麦	47	32	12	-	33	2	45	-	2	-

(2) は種状況

始期 10月20日 盛期 10月29日 終期 11月7日

VI 令和6年度 新潟西部支部新潟米部会の主な取組状況

1 取組方針

(1) 新潟米主要品種の品質・食味確保

令和6年度は、「異常気象に備えたコンパクトなイネづくり 適正粳数で登熟向上」をスローガンに、登熟期の異常高温への対応を想定した中で、前年度の大幅な品質低下からのV字回復を目指し、関係機関と連携を図りながら品質・食味の向上の取組を行った。

(2) 水稻V溝乾田直播栽培の推進

今後の担い手不足への対応を想定し、「作期分散効果」及び「省力化効果」が見込め、大規模稲作経営体の受託面積拡大につながる技術として、V溝乾田直播栽培の周知を図り、定着・普及に向けた活動を行った。

(3) 雑草イネの被害発生・拡散防止

近年、発生ほ場が拡大傾向であり、稲作経営の支障となる雑草イネの被害縮小、拡散防止に向け、被害発生生産者に対して防除対策を周知するとともに、未確認の生産者に対して早期発見・対応に向けた啓発を行った。

(4) 大豆高位安定生産の推進

生育調査データに基づく栽培技術情報の提供や研修会での基本管理の啓発を行い、収量及び品質の向上による所得確保を支援した。

(5) 小麦の高水準な収量・品質確保

需要のある作物として小麦栽培の定着・拡大に向けて、生育調査データに基づいた技術情報の提供や現地研修を行い、高収量・高品質な麦生産による所得確保を支援した。

2 活動体制

新潟米部会構成機関

構成機関	機関名および部署
県	新潟地域振興局巻農業振興部 普及課
市	新潟市西区 農政商工課 新潟市西蒲区 産業観光課
J A	J A新潟かがやき 営農企画課及びアグリセンター
農業共済組合	新潟県農業共済組合 新潟支所
土地改良区	西蒲原土地改良区 計画課

3 会議・研修会等の開催

項 目	主 な 活 動 内 容	時 期	場 所	参加者等 ※()内は人数
(1)推進会議 等の開催	① 部会 第1回 ・ R 5 事業実績、決算の報告 ・ R 6 事業計画案、予算案の承認	4 月 26 日	巻庁舎	構成機関(16)
	第2回 ・ 適期中干し実施対策の検討ほか	6 月 3 日	巻庁舎	JA、振興局(11)
	第3回 ・ 高品質米確保に向けた今後の啓発・指導について ・ 異常気象時の迅速な情報伝達について	7 月 3 日	巻庁舎	構成機関(18)
	第4回 ・ 次年度対策の推進について	1 月 24 日	巻庁舎	JA、振興局(10)
	第5回 ・ 令和 6 年度活動実績報告 ・ 令和 7 年度事業計画案について	3 月 5 日	巻庁舎	構成機関(18)
	② 作柄検討会 ・ 作柄及び要因 ・ 次年度対策	12 月 17 日	西蒲 土改	関係機関(21)
	③ 水稻研修会 ・ 水稻 V 溝乾田直播研修会 (V 溝乾田直播のメリット、 管理のポイント)	5 月 22 日	西蒲区 中之口	生産者、構成機 関(65)
	・ 雑草イネ防除対策研修会 (雑草イネの基礎知識、防除技術対策)	1 月 29 日	西蒲区 漆山	生産者、構成機 関(31)
	④ 大豆研修会 ・ 令和 6 年産大豆技術対策研修会 (作柄要因と次年度対策、病虫害防除 に関する研究成果)	3 月 4 日	巻庁舎	生産者、構成機 関ほか(25)
	⑤ 小麦研修会 ・ 小麦栽培研修会 (栽培管理のポイント、適期収穫情報)	6 月 6 日	西蒲区 中之口	生産者、構成機 関ほか(26)

(2)技術情報の提供	① 技術情報等の発行 ・ 水稻 17回 ・ 新之助 9回 ・ 大豆 5回 ・ 小麦 6回 ・ 雑草イネ対策 1回	4～2月 5～9月 4～10月 4～2月 7月	- - -	構成機関及び FAX 登録生産者へ送信、JA から配布、県 HP に掲載、指導会等で活用 雑草イネ情報は JA を通じて対象者へ配布
	② YouTube 作成・配信 2回 (適期中干し、適正穂肥・水管理、次年度技術対策)	7月 2月	-	配布資料や JA の LINE で配信を周知
	③ 啓発チラシの作成・配布 ・ 夏場の適正水管理(4,100部) ・ 適期収穫 (2,600部) ・ 次年度対策 (5,000部)	7月 8月 1月	管内 各地	生産者全戸、関係機関へ配布
	④ 看板設置 普及4箇所+JA設置	5～9月	-	調査ほに設置
	⑤ 高品質米生産啓発マグネットシート 5回 (適期中干し、適正穂肥、カメムシ防除、夏期水管理、適期収穫)	6～9月	-	公用車に装着
	⑥ 高品質米生産啓発ポスター 5回 (適期中干し、適正穂肥、カメムシ防除、夏期水管理、適期収穫)	6～9月	-	構成機関窓口、ほ場看板に掲示
	⑦ 新潟西部地域の作物 160部	3月		関係機関、生産者、法人等へ配布
(3)生育調査ほの設置	① 生育調査ほの設置 コシヒカリ 普及4箇所、JA15箇所 こしいぶき 普及1箇所、JA4箇所 新之助 普及1箇所、JA6箇所 大豆 普及・共済 5箇所 小麦 普及・JA 4箇所	水稻 5～9月 大豆 6～10月 小麦 10～6月	管内 各地	調査データを生育速報や指導資料等に反映
	② 水稻課題解決実証ほ(植付深さ・本数が及ばず収量・品質への影響) 普及1箇所	5～9月	西蒲区 漆山	構成機関で結果共有 次年度対策に反映
	③ 水稻乾田直播調査ほ ・ V溝乾田直播栽培 普及4箇所 ・ グレーンドリル播種方式 普及2箇所	5～9月	西蒲区 各地 西蒲区 西川	栽培者の指導、研修会、指導会等に活用

4 活動目標及び結果

項 目	R6 実績	R6 目標	R5 実績
(1) 新潟米主要品種の食味・品質の確保			
ア 1 等級比率* コシヒカリ	81.0%	90%以上	0.2%
こしいぶき	90.8%	90%以上	10.9%
新之助	99.3%	100%	98.1%
イ 玄米タンパク質含有率**			
コシヒカリ	5.5%	6.0%	5.0%
新之助	5.3%	5.8%	5.3%
ウ 斑点米カメムシ類による格落率***	1.6%	0.3%以下	0.14%
(2) 大豆高位安定生産の推進****			
ア 単収 (全品種平均)	157kg/10a	180kg/10a	155kg/10a
イ 里のほほえみの3等級以上比率	16.4%	70%以上	18.4%
(3) 小麦の高水準な収量・品質確保****			
ア 単収	426kg/10a	350kg/10a 以上	423kg/10a
イ 2 等級以上比率	94.6%	100%	100%

*：加工用米・飼料米・米粉用米・備蓄米を除く JA 検査数値(12 月末日時点)

**：玄米タンパク質含有率は、巻農業普及指導センター調査ほ数値

***：主食用米全品種の検査数量に占める割合

****：JA 検査数値から算出

VII 技術資料

技1 水稻定点等生育調査ほ成績

1 コシヒカリ

設置場所	定点ほ場名	田植日
西川地区 升潟	特殊気象感応ほ	5月11日
巻 地区 河井	地域定点調査ほ	5月3日
潟東地区 遠藤	地域定点調査ほ	5月6日
岩室地区 橋本	地域定点調査ほ	5月16日

(1) 本田生育調査

設置場所	草丈 (cm)							稈長
	5/30	6/10	6/20	6/30	7/10	7/20	7/30	
西川地区 升潟	21	23	40	58	68	79	94	101
巻 地区 河井	24	30	41	63	75	86	101	90
潟東地区 遠藤	30	31	48	69	82	91	108	101
岩室地区 橋本	19	30	40	56	72	87	98	101
平均	24	29	42	62	74	86	100	98
前年比 (%)	91	96	94	109	100	100	99	105
平年比 (%)	90	92	106	116	108	106	106	103
指標比 (%)	98	89	106	112	111	111	111	109

設置場所	茎数 (本/m ²)							穂数
	5/30	6/10	6/20	6/30	7/10	7/20	7/30	
西川地区 升潟	73	120	311	424	352	323	293	291
巻 地区 河井	121	256	401	408	394	366	327	296
潟東地区 遠藤	98	283	552	653	522	458	419	394
岩室地区 橋本	78	156	433	576	571	520	429	377
平均	93	204	424	515	460	417	367	340
前年比 (%)	85	96	100	93	85	92	90	94
平年比 (%)	79	78	102	105	104	104	97	91
指標比 (%)	93	82	109	107	107	107	102	97

設置場所	葉数 (L)							最終葉数
	5/30	6/10	6/20	6/30	7/10	7/20	7/30	
西川地区 升潟	4.9	6.5	8.8	10.3	11.3	12.2	13.8	13.8
巻 地区 河井	5.5	7.5	9.0	10.1	11.0	11.8	12.5	12.5
潟東地区 遠藤	5.8	7.9	9.8	11.1	12.1	13.0	13.9	14.0
岩室地区 橋本	4.0	6.3	8.6	10.2	11.3	11.8	13.8	14.0
平均	5.1	7.1	9.1	10.4	11.4	12.2	13.5	13.6
前年差	-0.2	0.3	0.2	0.4	0.2	-0.3	0.2	0.3
平年差	-0.6	-0.3	0.3	0.4	0.3	0.1	0.4	0.2
指標差	0.0	-0.2	0.3	0.3	0.3	0.1	0.3	0.4

設置場所	葉色 (SPAD)								
	6/10	6/20	6/30	7/10	7/20	7/30	出穂期	出穂+15日	出穂+25日
西川地区 升潟	31.3	40.4	40.7	36.0	33.6	32.8	33.6	32.6	35.8
巻 地区 河井	38.0	36.1	36.2	33.4	33.0	32.6	31.8	31.3	27.1
潟東地区 遠藤	39.7	40.4	40.8	39.7	36.5	32.8	32.8	28.9	31.2
岩室地区 橋本	34.7	41.3	40.4	41.0	41.0	31.3	36.0	32.1	29.7
平均	35.9	39.6	39.5	37.5	36.0	32.4	33.6	31.2	31.0
前年差	-0.3	-3.2	-0.3	0.7	2.5	1.8	2.1	0.1	4.1
平年差	-1.5	0.3	1.7	1.9	2.8	0.5	1.7	-1.3	2.9
指標差	-2.1	-0.5	0.5	2.0	2.0	-0.6	1.6	-0.8	4.0

(2) 成熟期調査

設置場所	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	葉数 (L)	最高分け時期 (月・日)	有効茎歩合 (%)	幼穂形成期 (月・日)	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)
西川地区 升潟	101	19.8	291	13.8	7月1日	68.6	7月16日	8月6日	9月13日
巻 地区 河井	90	19.0	296	12.5	7月1日	72.5	7月8日	8月1日	9月5日
潟東地区 遠藤	101	18.0	394	14.0	7月1日	60.3	7月10日	8月4日	9月10日
岩室地区 橋本	101	17.1	377	14.0	7月1日	65.5	7月15日	8月8日	9月14日
平均	98	18.5	340	13.6	7月1日	66.7	7月12日	8月4日	9月10日
前年比・差	105	94	94	0.3	-1	1.8	1	3	5
平年比・差	103	98	91	0.2	2	-1.1	0	1	-3

(3) 収量調査

設置場所	穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	全粒数 (百粒/m ²)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	精玄米重 (g/m ²)
西川地区 升潟	297	80	237	81.8	23.5	434
巻 地区 河井	337	66	223	95.3	21.9	492
潟東地区 遠藤	371	75	277	76.2	21.2	459
岩室地区 橋本	370	62	231	92.4	21.0	443
平均	344	71	242	86.4	21.9	457
前年比・差	93	88	82	-3.4	105	85
平年比・差	93	88	82	-0.3	99	87
指標比・差	98	91	90	-2.6	99	85

(4) 粗玄米粒厚別重量比 (%)

設置場所	2.2mm	2.1mm	2.0mm	1.9mm	1.85mm	1.8mm	1.7mm	1.7mm下	精玄米重歩合 (1.85mm以上)
西川地区 升潟	13.4	46.3	28.5	6.6	1.4	1.1	1.3	1.3	96.3
巻 地区 河井	3.9	31.1	51.3	10.4	1.3	0.7	0.7	0.6	98.1
潟東地区 遠藤	5.3	29.9	43.4	12.5	2.9	1.8	2.0	2.1	94.0
岩室地区 橋本	2.1	21.1	52.0	15.2	3.0	1.9	2.3	2.4	93.4
平均	6.2	32.1	43.8	11.2	2.2	1.6	1.6	1.6	95.5
前年差	0.2	-3.1	0.0	0.2	0.4	0.7	0.8	1.0	-2.2
平年差	2.6	6.2	-4.7	-3.8	-0.6	0.0	0.4	0.3	-0.4

(5) 節間長・葉身長 (cm)

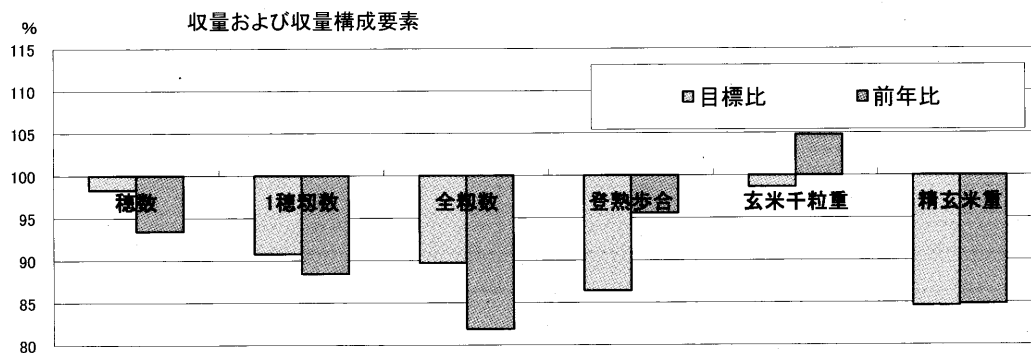
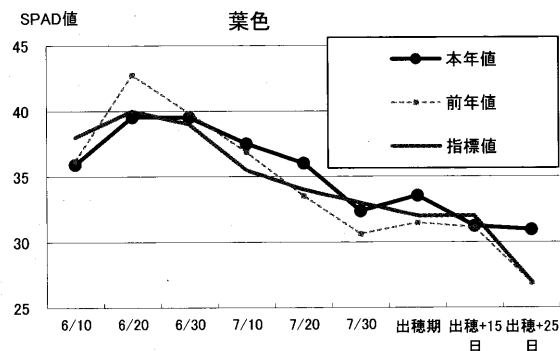
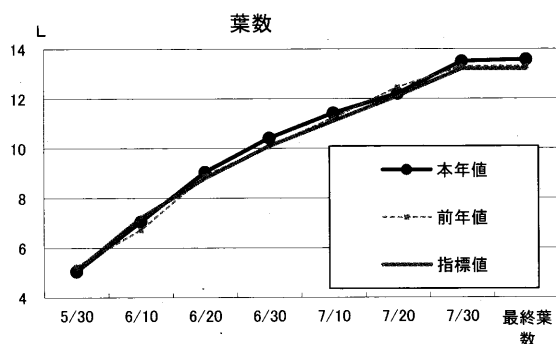
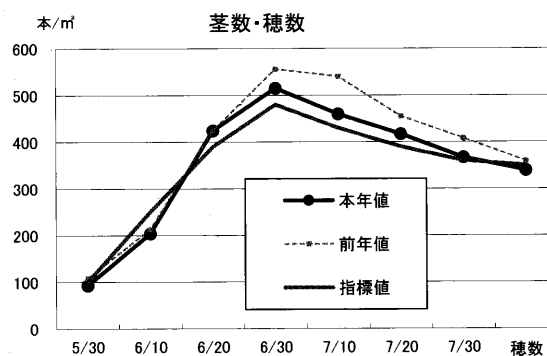
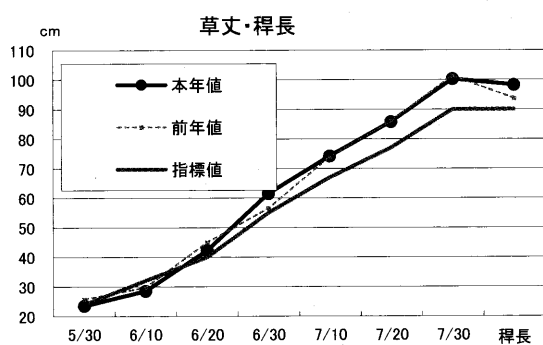
設置場所	節間長						葉身長		
	N1	N2	N3	N4	N5	N6	B1	B2	B3
西川地区 升潟	43.5	22.6	15.5	11.9	6.7	0.4	29	37	44
巻 地区 河井	36.8	20.3	15.7	11.2	5.3	0.2	28	40	45
潟東地区 遠藤	40.1	23.1	18.9	11.7	7.4	0.6	33	46	49
岩室地区 橋本	37.2	20.2	18.7	11.9	7.2	0.3	25	38	46
平均	39.4	21.5	17.2	11.6	6.6	0.4	28	40	46
前年比	100	104	104	102	97	200	99	96	105
平年比	104	102	104	103	118	210	108	107	110
指標比	104	94	96	106	221	—	114	106	110

(6) 品質調査

設置場所	食味; TM-3500 タンパク含量 (%)	品質:RGQ1100B(%)					
		整粒	胴割粒	未熟粒	被害粒	死粒	着色粒
西川地区 升湯	6.0	81.8	0.1	16.8	1.3	0.0	0.1
巻 地区 河井	5.4	77.7	0.0	22.1	0.1	0.0	0.0
湯東地区 遠藤	5.3	71.4	0.1	27.8	0.5	0.2	0.1
岩室地区 橋本	5.6	71.5	0.1	27.3	1.1	0.1	0.1
平均	5.5	75.6	0.1	23.5	0.8	0.1	0.1
前年差	0.4	20.7	-0.8	-19.6	-0.1	-0.4	0.0
平年差	0.1	13.8	-2.2	-10.4	-0.7	-0.6	0.0
指標差	-0.5	5.6	—	—	—	—	—

注) 品質: 本年値はRGQ1100B 農検検量線、前年値はRGQ1100B 新潟検量線、平年値はRGQ1100B 新潟検量線で測定

(7) 生育の推移、収量及び収量構成要素



2 こしいぶき

(1) 設置場所 新潟市西蒲区横戸 ※H28年まで：道上、H29：升湯、H30～R3三ツ門

(2) 耕種概要

育苗様式	播種期	播種量	移植期	栽植密度
稚苗加温	3月30日	150g/箱	5月7日	16.9 本/㎡

(3) 本田施肥量(kg/10a)

基肥			穂肥			合計		
N	P	K	N	P	K	N	P	K
6.7	4.8	3.2	0.0	0.0	0.0	6.7	4.8	3.2

(4) 本田生育調査

		5月30日	6月10日	6月20日	6月30日	7月10日	7月20日
草丈 (cm・%)	本年値	26	28	41	60	70	77
	前年比	95	93	92	109	100	93
	平年比	101	95	105	115	106	99
	指標比	103	93	98	125	108	99
茎数 (本/㎡・%)	本年値	82	228	468	558	464	425
	前年比	81	96	106	106	92	99
	平年比	60	74	98	103	97	95
	指標比	59	76	102	105	95	99
葉数 (L)	本年値	5.9	8.0	9.9	11.4	12.4	13.5
	前年差	-0.2	0.2	-0.1	0.2	0.0	0.3
	平年差	0.0	0.3	0.8	1.0	0.8	0.9
	指標差	0.4	0.6	0.7	0.4	0.9	0.9
葉色 (SPAD)	本年値	—	41.8	44.4	42.2	40.9	36.7
	前年差	—	-0.6	-2.2	-1.1	1.3	-2.3
	平年差	—	0.8	2.2	1.5	2.1	-0.5
	指標差	—	0.8	2.3	4.2	4.3	1.7

(5) 成熟期調査

項目	稈長 (cm)	穂長 (cm)	葉数 (L)	最高分けつ期 (月・日)	有効茎歩合 (%)	幼穂形成期 (月・日)	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)
本年値	81	18.9	13.6	6月30日	67.9	7月2日	7月25日	8月28日
前年比差	97	99	0.4	+0	-19.7	1	+1	+2
平年比差	99	102	0.4	+3	-7.1	-1	-1	-5
指標比差	101	—	0.8	—	-7.6	—	—	—

(6) 収量調査

項目	穂数 (本/㎡)	1穂粒数 (粒)	全粒数 (百粒/㎡)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	粗玄米重 (g/㎡)	精玄米重 (g/㎡)	整粒歩合 (%)	玄米タンパク (%)
本年値	395	73	290	88.3	21.4	573	563	70.1	5.3
前年比差	101	92	93	-2.3	103	99	100	21.4	-0.1
平年比差	100	99	99	-0.7	98	99	100	6.3	-0.4
指標比差	99	105	103	-1.7	97	106	104	0.1	-0.9

(7) 粗玄米粒厚別重量比 (%)

項目	2.2mm	2.1mm	2.0mm	1.9mm	1.85mm	1.8mm	1.7mm	1.7mm下	精玄米重歩合 (1.85mm以上)
本年値	17.5	51.8	24.1	4.1	0.8	0.5	0.6	0.5	98.3
前年差	6.8	4.3	-7.3	-3.0	-0.5	-0.2	0.0	0.0	0.2
平年差	7.5	10.6	-13.8	-3.5	-0.5	-0.2	0.1	0.1	0.3

(8) 節間長・葉身長

項目	節間長 (cm)						葉身長 (cm)		
	N1	N2	N3	N4	N5	N6	B1	B2	B3
本年値	35.7	18.4	13.9	9.4	2.2	0.1	27	34	38
前年比	92	97	95	100	78	—	90	90	116
平年比	96	95	94	115	117	—	106	103	109

3 新之助

(1) 設置場所 新潟市西蒲区下和納 ※H29年は西蒲区井随、H30～下和納 平年値はH29～R4の6年平均

(2) 耕種概要

育苗様式	播種期	播種量	移植期	栽植密度
稚苗加温	4月28日	180g/箱	5月14日	16.1 本/m ²

(3) 本田施肥量(kg/10a)

基肥			追肥			穂肥		
N	P	K	N	P	K	N	P	K
4.0	4.0	3.1	0.8	0.2	0.8	1.0	0.3	1.0
合計								
N	P	K						
5.8	4.5	4.9						

(4) 本田生育調査

		5月30日	6月10日	6月20日	6月30日	7月10日	7月20日	7月30日
草丈 (cm・%)	本年値	19	25	34	49	62	76	86
	前年比	100	104	97	117	100	100	101
	平年比	83	93	103	117	109	110	110
	指標比	73	89	100	120	119	117	112
茎数 (本/m ² ・%)	本年値	84	235	622	770	743	639	493
	前年比	100	127	147	108	106	107	83
	平年比	108	124	158	133	124	120	104
	指標比	140	131	156	128	128	123	110
葉数 (L)	本年値	4.2	6.4	8.7	10.1	11.2	11.9	13.5
	前年差	0.2	0.9	0.8	0.7	0.6	-0.1	1.7
	平年差	-0.1	0.2	0.4	0.3	0.1	-0.2	0.1
	指標差	-0.4	-0.4	0.1	0.1	-0.3	-0.4	-0.1
葉色 (SPAD)	本年値	—	35.3	37.8	38.7	37.2	37.5	34.3
	前年差	—	2.0	-0.5	3.6	-0.1	0.8	1.6
	平年差	—	0.0	-2.5	0.0	-0.1	2.6	0.7
	指標差	—	-0.7	-3.2	1.7	2.7	3.5	0.3

(5) 成熟期調査

項目	稈長 (cm)	穂長 (cm)	葉数 (L)	最高分けつ期 (月・日)	有効茎歩合 (%)	幼穂形成期 (月・日)	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)
本年値	88	17.5	14.3	7月1日	69.3	7月22日	8月13日	9月23日
前年比差	104	-0.9	0.7	+1	9.5	+0	+1	+6
平年比差	109	-0.6	0.3	-6	0.2	+1	+0	-1
指標比差	110	—	0.1	—	2.6	—	—	—

(6) 収量調査

項目	穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	全粒数 (百粒/m ²)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	粗玄米重 (g/m ²)	精玄米重 (g/m ²)	整粒歩合 (%)	玄米タンパク (%)
本年値	443	68	301	83.5	23.0	639	599	80.5	5.3
前年比差	97	97	94	-5.2	100	97	92	2.9	0.2
平年比差	107	96	102	-4.8	97	106	104	16.6	-0.2
指標比差	111	97	108	1.5	98	118	111	10.5	-0.5

(7) 粗玄米粒厚別重量比 (%)

項目	2.2mm	2.1mm	2.0mm	1.9mm	1.85mm	1.8mm	1.7mm	1.7mm下	精玄米重歩合 (1.9mm以上)
本年値	6.8	38.0	41.7	9.1	1.5	0.8	1.1	1.0	95.6
前年差	-14.3	-15.2	20.6	5.7	1.0	0.6	0.9	0.8	-3.2
平年差	-0.7	2.6	-1.0	-0.8	-0.2	-0.2	0.2	0.1	0.1

(8) 節間長・葉身長

項目	節間長 (cm)						葉身長 (cm)		
	N1	N2	N3	N4	N5	N6	B1	B2	B3
本年値	39.5	21.1	14.1	7.5	3.6	0.1	29	40	41
前年比	100	112	103	83	103	—	108	110	91
平年比	106	109	109	95	138	—	113	114	100

技2 令和6年度 地域課題解決実証ほ成績

1 実証内容

項 目	内 容										
実証のねらい (実証内容)	植付け深さ及び本数の改善による品質・収量向上の効果確認										
設 定 場 所	新潟市西蒲区漆山										
設 置 面 積	(区割) 4 (面積) 20a										
土 壌 条 件	(土性) 埴壌土 (乾・湿田の別) 湿田										
供 試 品 種	コシヒカリBL										
ほ場の設置	田植え機1行程分(8条)の植付け深さを、2~3cmの標準植え区(実証区)と5~6cmの深植え区(地域慣行の対照区)を設置した。 生育調査箇所は、手植えて、植付け深さ3cm(標準植え)と6cm(深植え)、植付け本数4本と8本の、4区(2反復)を設置した。 管理は実証ほ担当農家の慣行とした。										
調 査 概 要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>調査項目及び方法</th><th>調査月日</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【耕種概要】 農家聞き取り</td><td>随時</td></tr> <tr> <td>【苗質調査】 草丈、葉齢、第一葉鞘長、乾物重</td><td>移植日(5/9)</td></tr> <tr> <td>【生育調査】 草丈、茎数、葉数、葉色 稈長、穂長、穂数、倒伏程度</td><td>田植え30日後(6/11)、 最高分げつ期(7/5)、 幼穂形成期(7/12) 成熟期(9/4)</td></tr> <tr> <td>【収量・品質調査】 精玄米重、坪刈り穂数、1穂粒数、㎡当たり粒数、登熟歩合、玄米千粒重、 整粒歩合、タンパク質含有率、節間長</td><td>成熟期(9/4)</td></tr> </tbody> </table>	調査項目及び方法	調査月日	【耕種概要】 農家聞き取り	随時	【苗質調査】 草丈、葉齢、第一葉鞘長、乾物重	移植日(5/9)	【生育調査】 草丈、茎数、葉数、葉色 稈長、穂長、穂数、倒伏程度	田植え30日後(6/11)、 最高分げつ期(7/5)、 幼穂形成期(7/12) 成熟期(9/4)	【収量・品質調査】 精玄米重、坪刈り穂数、1穂粒数、㎡当たり粒数、登熟歩合、玄米千粒重、 整粒歩合、タンパク質含有率、節間長	成熟期(9/4)
調査項目及び方法	調査月日										
【耕種概要】 農家聞き取り	随時										
【苗質調査】 草丈、葉齢、第一葉鞘長、乾物重	移植日(5/9)										
【生育調査】 草丈、茎数、葉数、葉色 稈長、穂長、穂数、倒伏程度	田植え30日後(6/11)、 最高分げつ期(7/5)、 幼穂形成期(7/12) 成熟期(9/4)										
【収量・品質調査】 精玄米重、坪刈り穂数、1穂粒数、㎡当たり粒数、登熟歩合、玄米千粒重、 整粒歩合、タンパク質含有率、節間長	成熟期(9/4)										

2 耕種概要

耕 種 概 要		実証区	対照区
	移植設定	植付け本数及び深さ 調査株 4本3cm植え(4標区) 8本3cm植え(8標区)	植付け本数及び深さ 調査株 4本6cm植え(4深区) 8本6cm植え(8深区)
	土づくり	稲わら春すき込み 土づくり資材: なし	実証区と同一の管理(以下、同じ)
	育苗	稚苗無加温 播種: 4/14 播種量: 150乾粳g/箱 育苗日数: 25日	
	移植日	移植: 5/9 栽植密度: 17.0株/m ²	
要	施肥	基肥: 4/16 越後の輝き有機50スーパー元肥 30kg/10a(12-6-5) 4/16 鶏ふん堆肥 30kg/10a(2.5-3.5-5.5) 穂肥: 8/1 国産化成肥料 13kg/10a(14-14-14)	

3 調査結果

(1) 苗 質

苗の種類	育苗日数 (日)	苗 丈 (cm)	葉 齢 (葉)	第1葉鞘長 (cm)	乾物重 (mg/本)
稚苗	25	14.2	2.4	3.6	12

(2) 生育経過(全区)

最高分げつ期	幼穂形成期	出穂期
7/5	7/12	8/6

草丈 (cm)

※9/4 は稈長

	6/11	7/5	7/12	9/4
4 標区	24	66	73	96
8 標区	26	64	73	96
4 深区	26	62	67	92
8 深区	27	62	69	92

茎数(本/m²)

※9/4 は穂数

	5/9	6/11	7/5	9/4
4 標区	68	211	631	341
8 標区	136	422	816	440
4 深区	68	133	428	239
8 深区	136	253	563	335

葉数(葉)

	6/11	7/5	7/12	7/26	9/4
4 標区	7.4	11.1	11.8	13.5	13.9
8 標区	7.5	10.8	11.6	13.2	13.9
4 深区	6.9	10.8	11.6	13.3	13.6
8 深区	7.2	10.7	11.5	13.1	13.6

葉色 (SPAD 値)

	6/11	7/5	7/12	7/26	8/6	8/22	9/2
4 標区	35.6	41.2	39.7	32.7	33.8	33.7	28.2
8 標区	36.6	37.5	37.2	31.2	33.4	31.9	26.5
4 深区	33.4	40.7	37.6	32.4	32.7	32.9	28.2
8 深区	35.0	37.8	36.1	31.0	32.4	31.7	25.6

(3) 出穂期・成熟期の生育・障害調査

	有効茎歩合(%)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	倒伏 程度
4 標区	54	8/6	9/4	96	17.7	2
8 標区	54			96	16.6	
4 深区	56			92	17.8	
8 深区	60			92	17.0	

	葉いもち	穂いもち	紋枯病
4 標区	無	無	無
8 標区	無	無	無
4 深区	無	無	無
8 深区	無	無	無

(4) 収量及び収量構成要素

	穂 数 (本/㎡)	1 穂粒数 (粒)	㎡粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/10a)
4 標区	341	81.4	27,700	84.2	21.8	508
8 標区	440	64.1	28,200	90.8	21.7	535
4 深区	239	83.3	19,900	85.7	22.1	359
8 深区	335	68.9	23,100	86.7	21.8	435

(5) 節間長

	N 1 (cm)	N 2 (cm)	N 3 (cm)	N 4 (cm)	N 5 (cm)	N 6 (cm)	計 (cm)
4 標区	41.5	21.8	16.0	11.5	5.9	0.1	97
8 標区	37.3	21.1	18.1	12.3	7.7	0.3	97
4 深区	43.4	22.0	14.9	10.9	6.0	0.2	97
8 深区	39.0	20.8	16.7	11.2	7.7	0.4	96

(6) 食味成分 (食味分析計)

	玄米タンパク質含有率(%)
4 標区	5.2
8 標区	5.4
4 深区	5.2
8 深区	5.1

(7) 玄米品質 (サタケ RGQI10B)

	整粒 (%)	未 熟 粒 (%)					被 害 粒 (%)			死米 (%)
		乳白	基部 未熟	腹白	青未 熟	その他 未熟	胴割 れ	碎米	その他 被害粒	
4 標区	73.0	0.2	0.4	0.4	0.2	25.4	0.1	0.1	0.2	0.0
8 標区	72.3	0.2	0.2	0.1	0.1	26.1	0.3	0.2	0.5	0.0
4 深区	71.6	0.3	0.8	0.4	0.2	25.4	0.2	0.5	0.6	0.0
8 深区	73.4	0.4	0.9	0.2	0.1	23.9	0.3	0.2	0.5	0.1

(8) 玄米粒厚分布

	~2.2mm (%)	2.2~2.1 (%)	2.1~2.0 (%)	2.0~1.9 (%)	1.9~1.85 (%)	計 (%)	1.85mm未満 (%)
4 標区	2.5	25.6	54.3	11.9	2.2	96.4	3.6
8 標区	2.1	25.1	55.8	12.1	2.0	97.1	2.9
4 深区	4.3	37.5	43.5	9.4	1.5	96.2	3.8
8 深区	3.2	29.1	50.1	11.9	1.9	96.2	3.8

(9) 考察

- ・ 茎数は、植付け本数が同じ場合、深植えの方が初期の茎数増加が少なく、その後も標準植えより茎数が少ないまま生育が進み、穂数も少なかった。
- ・ 葉色値は、4本植えで、8本植よりも高い傾向であった。
- ・ 「8 標区」の玄米重は目標収量 (540kg/10a) に近い量であったが、穂数は目標 (350本/m²) を大きく上回り過剰だった。「4 標区」が目標穂数に最も近い値であった。
- ・ 1穂粒数は8本植えで少なく、登熟歩合は1穂粒数が少ないほど高くなった。
- ・ 千粒重は、最もm²当たり粒数が少ない「4 深区」で他区よりやや大きく、粒厚分布もやや大粒の傾向であった。
- ・ 玄米品質、玄米タンパク含量は、区による差は小さくほぼ同等となった。

以上の結果から、深植えは初期生育を停滞させ、穂数が確保できず、収量低下につながることを確認された。

なお、本年産コシヒカリは、穂数不足で収量が低いなか、「8 標区」は穂数が多いことで4区の中で収量が最も多く、玄米品質は他区と同等となった。しかし、平年作の気象条件では、粒数過剰による品質低下が懸念される。

同様に、目標に近い穂数を確保できた「4 標区」は、最も安定した収量と高品質を確保することが可能であると考えられる。

管内慣行に多い「8 深区」は「4 標区」に比べ収量が劣ったこと、省力化、コスト面でも劣ることから、4 標区 (4本・3cm植え) が管内に普及すべき技術と考えられた。

技 3 適期収穫実証結果(登熟積算気温による玄米品質の変化)

1 概要

設置場所	新潟市西蒲区漆山
品種	コシヒカリBL
移植日	5月9日
出穂期	8月6日

2 調査結果

積算気温 (℃)	整粒 (%)	未熟粒 (%)	乳白粒	基部未熟	腹白未熟	白未熟粒(乳白+基部+背腹)	青未熟粒	その他未熟
906	60.8	26.2	0.1	0.3	0.4	0.8	1.6	23.9
961	67.0	28.2	0.2	0.7	0.2	1.1	0.5	26.6
1014	71.9	26.4	0.3	0.4	0.5	1.2	0.4	24.9
1068	70.1	28.6	0.4	0.2	0.4	1.0	0.1	27.6
1169	70.2	28.5	0.1	0.8	0.3	1.2	0.0	27.3
1276	64.6	29.1	0.7	1.1	0.9	2.6	0.0	26.5

satake-RGQI10B

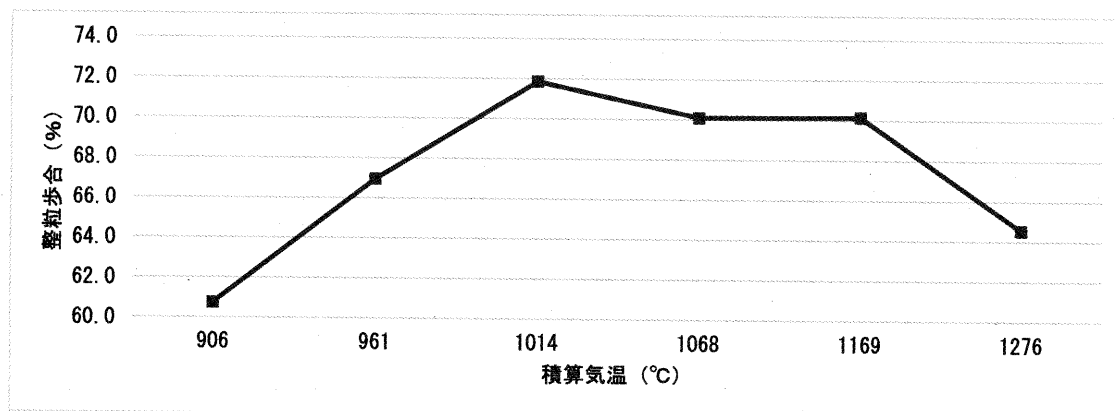


図1 積算気温による整粒歩合の変化

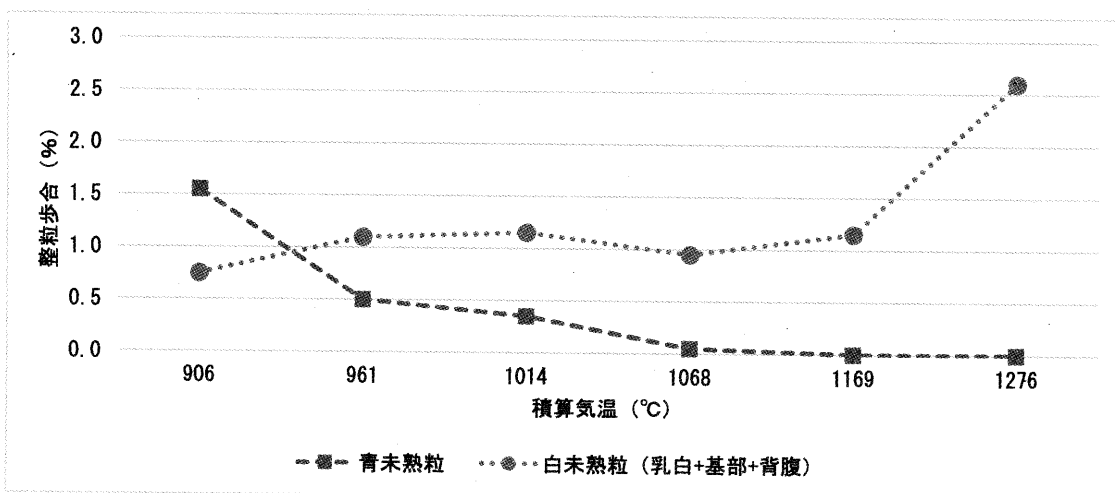


図2 積算気温による白未熟粒及び青未熟粒の変化

- ・ 積算気温1014～1169℃で整粒歩合70%以上であった。
- ・ 積算気温906℃では青未熟粒が多かった。1276℃では白未熟粒が大幅に増加した。
- ・ 上記結果から、収穫適期の積算気温は1000～1170℃頃(成熟期+2～8日)であった。

枝4 令和6年度 水稻V溝乾田直播栽培実証結果

ほ場・播種

ほ場場所	国見	打越	福島	今井
品種	こしいぶき	コシヒカリBL	コシヒカリBL	にじのきらめき
ほ場面積(ha)	1.2(大豆後2作目)	1.0	1.0	0.3
播種日	4月8日	4月15日	4月16日	4月12日
播種量(kg/10a)	6.0	5.4	6.0	7.0

施肥

基肥(肥料名、N kg/10a)	4/8 N 3.7kg (乾田直播一発肥料2号)	4/15 N 6.0kg (V溝直播専用元肥上越70)	4/16 N 6.0kg (V溝直播専用元肥上越70)	4/12 N 8.4kg (MRB早生一発)
追肥(肥料名、N kg/10a)	7/13 N 1.0kg (尿素)	7/5 N 2.0kg (ドローン用単肥)	8/3 N 1.8kg (尿素)	6/24 N 1.4kg (オール14)
追肥(肥料名、N kg/10a)	-	8/3 N 1.5kg (ドローン用単肥)	-	7/18 N 3.0kg (軽量一発N30)
追肥(肥料名、N kg/10a)	-	-	-	8/6 N 1.4kg (オール14)
施肥窒素量 合計(kg/10a)	4.7	9.5	7.8	14.2

除草体系

出芽前非選択性除草剤	4/18 ラウンドアップマックス スロード	4/26 ラウンドアップマックス スロード	4/28 ラウンドアップマックス スロード	4/23 ラウンドアップマックス スロード
湛水前選択性除草剤	5/18 クリンチャーバスME 液剤	5/21 クリンチャーバスME 液剤	5/21 クリンチャーバスME 液剤	5/21 トドメバスMF液剤
湛水日	6月6日	5月25日	5月31日	5月30日
湛水後一発剤処理日	6月20日	5月25日	6月7日	6月4日
一発処理剤名	ベッカク豆つぶ250	カイリキZジャンボ	ベンケイ豆つぶ250	ウルティモZジャンボ
湛水後残草処理剤	7/4 クリンチャーバスME液剤	-	-	6/17 クリンチャーEW

苗立

*種籾の千粒重27.5g(にじのきらめきは29.4g)での換算

苗立数(本/m)	19.5	22.5	15.6	12.4
苗立数(本/m ²)	98	113	78	62
苗立率(%)*	44.9	57.5	35.8	26.0

生育 (葉色はSPAD値)

	草丈 m 茎数 葉色	草丈 m 茎数 葉色	草丈 m 茎数 葉色	草丈 m 茎数 葉色
調査日: 6/13	36cm 190本 39.8	30cm 285本 35.1	31cm 220本 37.6	25cm 150本 40.1
調査日: 7/ 5	52cm 440本 36.8	57cm 485本 36.3	57cm 515本 38.6	45cm 495本 43.4
調査日: 7/22	82cm 405本 37.6	87cm 400本 35.8	90cm 475本 36.9	78cm 490本 41.8

幼穂形成期、出穂期及び葉色

幼形期、出穂期: 幼穂伸長日数	7/7、7/30:23日間	7/18、8/11:24日間	7/19、8/12:24日間	7/21、8/14:24日間
葉色:(出穂期) (+15) (+25)	(38.2) (39.5) (36.8)	(32.5) (-) (28.0)	(34.2) (-) (31.4)	(39.7) (-) (38.6)

ほ場所	国見	打越	福島	今井
品種	こしいぶき	コシヒカリBL	コシヒカリBL	にじのきらめき

成熟期及び倒伏程度

	9/5 倒伏無	9/20 倒伏甚	9/20 倒伏甚	9/30 倒伏無～微
--	---------	----------	----------	------------

稈長 穂長 穂数 有効茎歩合

(cm)	(cm)	(本/㎡)	(%)	77	18.3	335	76	98	17.2	365	75	102	18.2	415	81	75	21.4	410	83
------	------	-------	-----	----	------	-----	----	----	------	-----	----	-----	------	-----	----	----	------	-----	----

収量及び収量構成要素

坪刈収量(kg/10a)	508	552	496	618
実収(kg/10a)	480	467 (移植、直播平均)	456	630
穂数(本/㎡) 一穂粒数 ㎡粒数	340 75.2 25,600	410 85.2 34,900	342 80.7 27,500	382 98.0 37,400
登熟歩合(%) 千粒重(%)	94.2 22.1	83.5 21.6	85.2 21.6	77.4 23.5

食味、外観品質

玄米タンパク(%)	5.9	5.1	4.9	5.1
整粒歩合(%), 主な非整粒	79.1 その他未熟	68.9 その他未熟	68.6 その他未熟	73.8 その他未熟

結果及び考察

○国見ほ場、打越ほ場はV溝乾田直播種2作目、福島ほ場、今井ほ場は前年移植栽培後の1作目であった。
 ○播種作業は、ほ場表面が乾いた4月上～中旬に行われ、標準量6kg/10aをめやすに行われた。
 ○基肥は播種同時に専用肥料が施用された。施用量は移植栽培並、大豆後2作目の国見ほ場では半量程度であった。
 ○追肥は、生育と気象の状況をふまえて1～3回(窒素量1.0～5.8kg/10a)施用された。
 ○除草体系は既定の3剤体系(非選択性→選択性→一発処理剤)に加え、残草が見られたほ場では1剤を追加処理した。
 ○苗立ちは、播種後の少雨で種子の吸水が不十分であったため、福島ほ場、今井ほ場では目標値(100本/㎡)に達しなかった。
 ○各ほ場とも7/5頃に最高分けつ期を迎え、最高茎数は移植栽培並であったが、国見ほ場ではやや少なかった。
 ○出穂期は連休移植栽培と比べ7～10日程度遅れたが、追肥によって葉色は適正值で推移した。
 ○7月の日照不足で、稈長は長く伸長し、成熟期の倒伏程度はコシヒカリでは甚程度、他品種では無～微程度であった。
 ○成熟期は連休移植栽培と比べ、10日程度遅くなった。
 ○国見ほ場のこしいぶきは、穂数不足が主要因でやや低収量となった。タンパク、整粒歩合は良い値であった。
 ○打越ほ場のコシヒカリは、移植栽培以上の(坪刈)収量を確保できた。タンパク、整粒歩合はやや低かった。
 ○福島ほ場のコシヒカリは、移植栽培並の収量であった。タンパク、整粒歩合はやや低かった。
 ○今井ほ場のにじのきらめきは、移植栽培以上の収量を確保した。要因は良好な栄養状態を保ったことで、分けつによる穂数確保と一穂粒数の確保ができたことである。タンパクはやや低かったが、整粒歩合は高かった。

技5 令和6年度 プラウ耕鎮圧体系方式水稻乾田直播栽培実証結果

(播種機：松山社製UFGシーダー)

1 耕種概要等

設置場所	新潟市西蒲区押付	
項目	鎮圧有ほ場	鎮圧無ほ場
品種	にじのきらめき	
作付履歴	大豆作7～8年後、水稻2作目 前年は基肥無し（穂揃い期追肥のみ）で、「にじのきらめき」倒伏5	
ほ場管理	秋 プラウ耕(15～20cm) →4月第2週 スタブルカルチ・畦ぬり →レベラー →バーチカルハロー →4/13 ロータリー耕 →4/14 耕起・播種・側条施肥	
基肥	オリジナル肥料 含有成分(25-17-8)%窒素のみ6.2kg/10a 成分施用量(6.2-4.2-2.0)kg/10a	
播種	4/14 6.5kg/10a 条間33cm 播種深2～3cm	
苗立ち(注)	45.3本/m ² 20.5%	30.9本/m ² 14.0%
鎮圧作業	4/15 ケンブリッジローラー 縦・横かけ	無し
除草1	5/1 グリホエキス液剤	
除草2	5/31 クリンチャーバスME液剤	6/3 クリンチャーバスME液剤
水	6/7 湛水 以降、湛水管理（漏水あり）	
除草3	6/12 流星1キロ粒剤	
追肥	8/9 ドローン専用尿素45 N1.4kg/10a	

(注) 苗立ち率は播種量6.5kg/10a、千粒重29.4g、条間33cmとして1m苗立ち数から算出。

○苗立ち状況

5/7 鎮圧ほ場は出芽はじめ

5/20 鎮圧ほ場 出芽個体の条が見え始め 無鎮圧ほ場は、条が見えず

5/22 無鎮圧ほ場で条が見え始め

鎮圧ほ場の方が、イネも雑草も出芽、生育が早い

2 結果

- ・播種後の鎮圧作業で、苗立ちが1週間程度早くなり、出芽率・揃いの向上が見られた。
- ・両区とも苗立ち率が低かったが、種子の休眠が深かったことが主要因と思われる。
- ・除草剤の3剤体系処理でおおむね雑草発生は抑えられた（残草は散見された）。
- ・両区とも湛水の地下浸透は少なかったが、畦畔や水尻付近からの漏水が見られた。
- ・穂数は少なかったが、一穂粒数、千粒重によって移植栽培並の収量を確保できた。
- ・外観品質・玄米タンパクは良好な値であった。

以上の結果から、鎮圧作業で発芽及び苗立ちの促進効果があった。元々水持ちの良いほ場であったため、この実証における水持ち向上効果は明確でなかった。

3 調査データ

(1) 苗立ち

調査日 6月11日

	苗立ち数 (本/㎡)	苗立ち率 (%)
鎮圧有区	45.3	20.5
鎮圧無区	30.9	14.0

※苗立ち率は、播種量6.5kg/10a、千粒重29.4g（玄米23.5g）として算出

(2) 生育経過

		7月5日	7月22日	7月29日	8月5日	8月13日
鎮圧有区	草丈 (cm)	49	84			
	茎数 (本/㎡)	297	285			
	葉色 (SPAD)	39.9	41	39.9	38.6	40.3
鎮圧無区	草丈 (cm)	44	80			
	茎数 (本/㎡)	186	267			
	葉色 (SPAD)	41.7	42.1	43.6	39.1	42.6

出穂期

鎮圧有区	8月14日
鎮圧無区	8月16日

(3) 成熟期

調査日 9月4日

	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	葉色 (SPAD)	倒伏程度 (0~5)
鎮圧有区	79	21.7	255	41.8	0
鎮圧無区	80	22.5	255	43.0	0

(4) 収量・品質

ア 収量構成要素

	坪刈穂数 (㎡/本)	1穂穂数 (粒)	㎡当たり穂数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/10a)	実収 (kg/10a)
鎮圧有区	340	112	38,300	77.5	23.3	685	510
鎮圧無区	290	110	31,900	81.3	23.1	615	

イ 粒厚分布

(単位: %)

	篩目								精玄米重歩合 (%)
	2.2	2.1	2.0	1.9	1.85	1.8	1.7	くず	
鎮圧有区	23.1	39.3	23.7	7.5	1.9	1.3	1.6	1.6	95.5
鎮圧無区	18.2	34.4	29.6	9.5	2.6	1.4	1.9	2.4	94.3

ウ 節間長

(単位: cm)

	穂長	稈長	N1	N2	N3	N4	N5	N6
鎮圧有区	22.6	83	40.1	19.7	12.0	7.8	3.2	0.2
鎮圧無区	23.5	82	40.3	19.4	12.1	6.8	3.1	0.3

エ 食味・品質

(ア) 玄米タンパク質含有率 (単位: %)

鎮圧有区	6.3
鎮圧無区	6.3

※シズオカTM3500

(イ) 玄米品質

(単位: %)

	整粒	胴割粒	未熟粒	乳白粒	基部未熟	腹白未熟	青未熟粒	その他未熟
鎮圧有区	77.0	0.0	20.9	2.3	1.1	1.2	3.0	13.3
鎮圧無区	73.2	0.2	25.2	2.1	0.5	1.4	5.1	16.1

	被害粒	碎粒	胴割米	発芽粒	芽くされ粒	茶米	斑点米	虫害粒	病害粒	奇形粒	その他
鎮圧有区	1.7	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
鎮圧無区	1.2	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

	死粒	青死米	白死米	着色粒	全着色粒	部分着色粒	赤米
鎮圧有区	0.3	0.0	0.3	0.1	0.0	0.1	0.0
鎮圧無区	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0

※サタケRGQ1100B、農検モード

技 6 雑草イネ防除対策実証結果

1 実証目的

除草剤体系処理による雑草イネ防除効果の確認

2 実証方法

(1) 実証場所及び実証規模

新潟市西蒲区巻地区 2 剤区 20 a、3 剤区 24 a

(2) 前年度の雑草イネ発生状況と対応

両実証ほ場とも 200～300 個体の抜き取り実施

抜き残し個体による発生源の種子が相当数あったと推測される

(3) 実証除草体系

区 名	代かき	移 植	除草剤処理			
			1 剤目	2 剤目		3 剤目
			ソルネット 1 キロ粒剤	シンズイ Z 1 キロ粒剤	ラオウ 1 キロ粒剤	ガンガン 豆つぶ250
2 剤区	5/1(-4)	5/5	5/5(0)	5/14(+9)	-	-
3 剤区	5/1(-4)	5/5	5/5(0)	-	5/14(+9)	5/20(+15)

中干し期間 6/5～ 6/21 ()内数値は移植からの日数

2 剤目処理～3 剤目処理 7～10 日間

参考 雑草イネ防除における指導のめやす

- 代かき日～移植日 3 日以内
- 移植日～1 剤目処理 0～1 日後 (代かき日～1 剤目処理 4 日以内)
- 1 剤目処理～2 剤目処理 7～10 日間
- 2 剤目処理～3 剤目処理 7～10 日間

3 実証結果

10a 当たり雑草イネ発生個体数

区名	8/6確認個体数	8/27確認個体数	合計確認個体数
2 剤区	14.5	2.5	17
3 剤区	0	0	0

4 結果

- ・2 剤区は、初期剤と一発処理剤を適期に処理する体系で、出穂後に抜き取り可能な発生数に抑えられた。
- ・3 剤区は、初期剤と一発処理剤 2 回を適期に処理する体系で、発生数を 0 に抑えられた。
- ・発生数をより少なく抑えるためには 3 剤体系が望ましく、適期に処理することで 1 作の処理でも高い効果が得られた。ほ場内での絶滅を目指すには、2 年間の継続した取組が必要 (機械等による他ほ場からの持ち込みに注意)。

VIII 参考資料

資1 水稻作柄の年次推移

(単位: kg/10a)

項目 年次	全 国		新 潟 県		下 越		西 蒲 原		普及センター推定収量			
	収量 *1	作況指数 *2	収量 *1	作況指数 *3	収量 *1	作況指数 *3	収 量	作況指数 *3	合計	早生	中生	晩生
平成元年	496	101	523	99	545	98	558	97	567	633	506	—
2	509	103	532	100	553	100	576	100	574	613	541	—
3	470	95	502	95	520	94	552	96	545	586	506	—
4	504	101	549	104	565	102	588	103	591	638	552	—
5	373	75	470	89	483	88	537	94	534	566	505	—
6	543	109	547	103	573	104	604	106	611	645	578	—
7	509	102	499	94	503	91	530	93	521	547	500	—
8	524	104	537	101	549	100	583	102	598	627	581	—
9	515	102	521	98	537	97	554	97	529	541	523	—
10	499	98	509	96	530	96	534	94	523	537	518	—
11	516	101	541	102	566	103	574	102	572	595	565	—
12	537	104	546	103	565	102	574	102	569	598	560	—
13	532	103	557	105	584	106	597	106	589	614	582	—
14	527	101	554	104	568	103	—	—	572	590	567	—
15	469	90	512	96	540	97	—	—	539	570	530	—
16	514	98	496	92	520	93	—	—	512	540	502	—
17	532	101	539	100	578	103	—	—	555	588	543	—
18	508	96	541	100	579	103	—	—	569	568	569	—
19	522	99	539	100	580	104	—	—	549	600	530	—
20	543	102	551	102	571	101	—	—	595	630	580	—
21	522	98	534	99	559	99	—	—	567	600	550	—
22	522	98	524	97	557	99	—	—	558	590	540	—
23	533	101	538	100	552	98	—	—	544	570	530	—
24	540	102	558	104	594	105	—	—	567	600	540	—
25	539	102	555	103	573	102	—	—	562	600	530	—
26	536	101	547	101	580	103	—	—	567	600	540	—
27	527	97	527	97	557	99	—	—	555	580	530	—
28	544	103	581	108	614	109	—	—	616	670	580	—
29	534	100	526	96	547	95	—	—	535	555	520	—
30	529	98	531	95	567	97	—	—	540	590	500	520
令和元年	528	99	542	100	567	100	—	—	542	610	520	570
2	531	99	558	103	575	101	—	—	542	580	520	560
3	539	101	529	96	551	95	—	—	525	580	490	520
4	536	100	544	99	555	98	—	—	556	600	530	550
5	533	101	511	95	526	95	—	—	552	590	530	570
6	540	101	536	98	546	97	—	—	513	560	480	570

注1) 平成9年から令和3年まで下越の数値は下越南を表す

注2) 全国、新潟県、下越、西蒲原欄は農林水産統計(12月10日公表)から引用

*1 収量は、篩目1.7mmベース

*2 全国作況指数は、過去5か年間に農家が使用した篩目の分布において、大きいものから9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出。ただしH26までは1.7mm以上で選別された玄米を基に算出

*3 県・下越・西蒲原作況指数は、1.85mm以上で選別された玄米を基に算出。ただしH26までは1.7mm以上で選別された玄米を基に算出

資 2 令和 6 年産米検査成績

(1) 地区別等級比率

ア 総計

	等級内訳 (30kg個)					等級比率 (%)			
	1 等	2 等	3 等	規格外	合計	1 等	2 等	3 等	規格外
巻	72,507	19,521	201	0	92,229	78.6	21.2	0.2	0.0
漆山	44,121	16,268	505	0	60,894	72.5	26.7	0.8	0.0
岩室	55,403	5,752	34	0	61,189	90.5	9.4	0.1	0.0
潟東	39,582	5,399	977	0	45,958	86.1	11.7	2.1	0.0
中之口	53,636	5,772	447	0	59,855	89.6	9.6	0.7	0.0
西川	99,154	19,956	507	0	119,617	82.9	16.7	0.4	0.0
黒埼	81,880	13,480	315	0	95,675	85.6	14.1	0.3	0.0
にいがた西	83,832	23,300	1,473	0	108,605	77.2	21.5	1.4	0.0
合計	530,115	109,448	4,459	0	644,022	82.3	17.0	0.7	0.0

(12月末現在JA検査数値、加工用米、米粉用米、飼料用米、備蓄米、輸出用米を除く)

イ コシヒカリ

	等級内訳 (30kg個)					等級比率 (%)			
	1 等	2 等	3 等	規格外	合計	1 等	2 等	3 等	規格外
巻	39,792	13,309	35	0	53,136	74.9	25.0	0.1	0.0
漆山	25,160	10,671	268	0	36,099	69.7	29.6	0.7	0.0
岩室	29,984	3,514	0	0	33,498	89.5	10.5	0.0	0.0
潟東	20,871	3,527	111	0	24,509	85.2	14.4	0.5	0.0
中之口	31,716	3,790	1	0	35,507	89.3	10.7	0.0	0.0
西川	64,060	11,745	490	0	76,295	84.0	15.4	0.6	0.0
黒埼	66,091	10,498	172	0	76,761	86.1	13.7	0.2	0.0
にいがた西	62,461	20,459	1,140	0	84,060	74.3	24.3	1.4	0.0
合計	340,135	77,513	2,217	0	419,865	81.0	18.5	0.5	0.0

(12月末現在JA検査数値、加工用米、米粉用米、飼料用米、備蓄米、輸出用米を除く)

ウ こしいぶき

	等級内訳 (30kg個)					等級比率 (%)			
	1 等	2 等	3 等	規格外	合計	1 等	2 等	3 等	規格外
巻	18,908	2,051	33	0	20,992	90.1	9.8	0.2	0.0
漆山	6,872	647	0	0	7,519	91.4	8.6	0.0	0.0
岩室	4,208	853	0	0	5,061	83.1	16.9	0.0	0.0
潟東	7,667	300	776	0	8,743	87.7	3.4	8.9	0.0
中之口	5,208	318	0	0	5,526	94.2	5.8	0.0	0.0
西川	18,551	2,253	0	0	20,804	89.2	10.8	0.0	0.0
黒埼	7,338	259	0	0	7,597	96.6	3.4	0.0	0.0
にいがた西	13,035	698	100	0	13,833	94.2	5.0	0.7	0.0
合計	81,787	7,380	909	0	90,076	90.8	8.2	1.0	0.0

(12月末現在JA検査数値、加工用米、米粉用米、飼料用米、備蓄米、輸出用米を除く)

エ ゆきん子舞

	等級内訳 (30kg個)					等級比率 (%)			
	1 等	2 等	3 等	規格外	合計	1 等	2 等	3 等	規格外
巻	9,285	264	0	0	9,549	97.2	2.8	0.0	0.0
漆山	9,027	1,316	32	0	10,375	87.0	12.7	0.3	0.0
岩室	5,138	99	0	0	5,237	98.1	1.9	0.0	0.0
潟東	3,315	933	0	0	4,248	78.0	22.0	0.0	0.0
中之口	13,297	464	0	0	13,761	96.6	3.4	0.0	0.0
西川	5,365	528	11	0	5,904	90.9	8.9	0.2	0.0
黒埼	4,281	1,352	143	0	5,776	74.1	23.4	2.5	0.0
にいがた西	1,509	555	27	0	2,091	72.2	26.5	1.3	0.0
合計	51,217	5,511	213	0	56,941	89.9	9.7	0.4	0.0

(12月末現在JA検査数値、加工用米、米粉用米、飼料用米、備蓄米、輸出用米を除く)

(2) 品種別等級 (主食扱い)

	等級内訳 (30kg個)					等級比率 (%)		
	1 等	2 等	3 等	規格外	総計	1 等	2 等	3 等
コシヒカリ	340,135	77,513	2,217		419,865	81.0	18.5	0.5
こしいぶき	81,787	7,380	909		90,075	90.8	8.2	1.0
ゆきん子舞	51,216	5,511	213		56,940	89.9	9.7	0.4
新之助	39,397	271			39,668	99.3	0.7	0.0
にじのきらめき	696	1,159	34		1,889	36.8	61.4	1.8
こがねもち	4,279	11,402	347		16,028	26.7	71.1	2.2
わたぼうし	915	3,185			4,100	22.3	77.7	0.0
五百万石	9,352	718			10,070	92.9	7.1	0.0
越淡麗	675	62			737	91.6	8.4	0.0
うるち米計	514,894	93,830	4,112		612,836	84.0	15.3	0.7
もち米計	5,194	14,839	347		20,380	25.5	72.8	1.7
酒米計	10,027	780			10,807	92.8	7.2	0.0
総計	530,115	109,449	4,459	0	644,023	82.3	17.0	0.7

(12月末現在JA検査数値、加工用米、米粉用米、飼料用米、備蓄米、輸出用米を除く)

資 3 米の主な格落理由

(1) 品種別格落理由割合 (主食扱い)

(単位: 30kg個・2等以下の格落数量に対する%)

品種名	格落数量	心白粒	充実度	部分カメ	青未熟粒	除青未熟	基部未熟	腹白	もみ混入	胴割粒	背白	発芽粒	その他
コシヒカリ	79,730	33.7	26.9	4.5	1.5	21.2	5.0	0.0	1.5	2.0	2.9	0.3	0.2
こしいぶき	8,289	15.4	24.7	25.6	6.2	24.1	0.0	0.0	0.3	0.0	1.8	0.0	1.5
ゆきん子舞	5,724	0.0	8.3	48.8	0.8	2.8	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	28.6	2.8
新之助	271	0.0	69.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	18.5	0.0	0.0	0.0
にじのきらめき	1,193	2.8	36.1	0.0	0.0	61.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
こがねもち	11,749	0.1	36.6	10.2	2.0	43.5	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	4.6	0.1
わたぼうし	3,185	0.0	62.8	1.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	5.5	0.0
五百万石	718	0.0	89.4	0.0	3.1	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
越淡麗	62	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
うるち米計	97,942	22.5	19.1	7.3	1.4	15.7	3.1	0.0	1.0	1.2	1.9	1.5	0.4
もち米計	15,186	0.1	40.8	7.7	1.4	36.6	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	4.4	0.1
酒米計	780	0.0	82.4	0.0	2.6	6.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
総計	113,908	18.5	26.0	6.8	1.5	17.1	2.5	0.0	0.8	1.3	1.5	1.7	0.3

※五百万石及び越淡麗は、1等の格落理由を除く

(12月末現在JA検査数値、加工用米、米粉用米、飼料用米、備蓄米、輸出用米を除く)

(2) 地域別格落理由割合 (主食扱い)

(単位: 30kg個・2等以下の格落数量に対する%)

地域	格落数量	心白粒	充実度	部分カメ	青未熟粒	除青未熟	基部未熟	腹白	もみ混入	胴割粒	背白	発芽粒	その他
巻	19,721	30.5	48.1	7.6	0.9	7.2	0.2	0.0	0.3	1.6	2.2	1.4	0.0
漆山	16,773	30.2	35.0	7.9	3.9	10.5	0.0	0.0	0.9	3.0	1.5	6.4	0.7
岩室	5,786	53.7	20.7	0.7	1.5	14.3	0.0	0.0	0.0	1.4	5.2	2.5	0.0
潟東	6,376	25.0	39.1	14.1	5.7	3.7	0.0	0.4	1.6	3.2	0.0	7.3	0.0
中之口	6,219	27.2	42.3	0.6	8.3	2.5	0.5	0.0	2.3	1.1	3.4	6.8	5.0
西川	20,463	4.5	37.3	6.6	0.2	44.6	5.6	0.0	0.2	0.0	1.0	0.0	0.0
黒埼	13,795	35.2	20.5	12.8	1.3	18.9	5.4	0.0	0.3	0.8	3.2	1.3	0.4
にいがた西	24,773	24.6	0.8	15.6	0.0	41.5	8.3	0.0	3.2	2.9	2.4	0.6	0.1
合計	113,881	25.8	28.4	9.5	1.8	23.2	3.5	0.0	1.2	1.7	2.1	2.4	0.4

※カントリーエレベーター初認定分は、格落要因が不明のため「その他」に含む

(12月末現在JA検査数値、加工用米、米粉用米、飼料用米、備蓄米、輸出用米を除く)

資 4 管内地区別米検査等級の推移

(1) 過去10年間における地区別1等級比率の推移

(単位：%)

	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	平年
巻地区	72.1	89.8	87.5	87.7	77.9	40.4	90.8	80.2	83.0	15.5	78.6	72.5
漆山地区								83.5	85.8	15.2	72.5	73.1
岩室地区	66.3	83.9	87.6	78.5	69.3	42.4	80.6	76.7	85.3	24.6	90.5	69.5
潟東地区	58.3	88.9	80.7	85.0	68.0	41.5	82.2	72.8	81.5	22.4	86.1	68.1
中之口地区	71.4	80.8	77.0	90.1	73.0	18.1	82.6	80.2	80.8	17.5	89.6	67.1
西川地区	65.2	85.9	84.0	87.7	68.0	28.4	78.8	77.6	80.6	14.4	82.9	67.1
黒埼地区	79.6	84.9	78.4	87.8	73.9	36.0	79.6	90.9	90.0	5.1	85.6	70.6
にいがた西地区	73.2	93.6	85.8	59.4	76.9	27.7	65.2	83.0	58.7	7.8	77.2	63.1
巻普及C管内	68.2	86.4	83.7	81.8	73.4	33.2	80.5	81.2	80.0	14.1	82.3	68.2

※加工用米、米粉用米、飼料用米、備蓄米、輸出用米を除いた値

※平年はH26～R5の単純平均

※巻普及C管内データは、当時所管した管内データ

(2) 地区別コシヒカリ1等級比率の推移

(単位：%)

地 区	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	平年
巻地区	90.5	94.7	92.0	88.6	78.5	12.2	94.7	91.7	85.1	0.0	74.9	72.8
漆山地区								95.2	93.1	0.0	69.7	74.0
岩室地区	89.3	91.4	90.3	76.9	68.5	4.5	90.2	87.9	90.9	0.0	89.5	69.0
潟東地区	77.2	92.1	82.7	87.1	75.2	15.6	84.4	91.4	84.4	0.0	85.2	69.0
中之口地区	85.2	90.0	74.4	88.8	72.0	1.9	80.5	92.6	77.5	0.0	89.3	66.3
西川地区	86.9	89.0	90.1	88.3	68.2	9.2	79.7	90.8	86.8	0.0	84.0	68.9
黒埼地区	90.2	86.1	82.7	87.2	77.7	26.7	81.5	95.0	91.8	0.0	86.1	71.9
にいがた西地区	86.8	93.5	87.4	62.0	80.0	16.2	64.0	88.8	58.3	1.2	74.3	63.8
巻普及C管内	87.3	91.7	86.7	81.7	75.2	13.4	81.2	91.6	81.9	0.2	81.0	69.1
県計	85.3	77.1	83.1	83.3	77.2	26.8	68.6	86.0	79.3	5.0	73.1	67.2

※加工用米、米粉用米、飼料用米、備蓄米、輸出用米を除いた値

※平年はH26～R5の単純平均

※巻普及C管内データは、当時所管した管内データ

※県計データは、令和6年産米農産物検査結果速報値（公表元：農水省令和6年12月31日現在）

参考 巻普及指導センター管内主要品種の1等級比率（主食用米）

(単位：%)

	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	平年
コシヒカリ	87.3	91.7	86.7	81.7	75.2	13.4	81.2	91.6	81.9	0.2	81.0	69.1
こしいぶき	14.8	87.1	82.8	81.3	69.3	60.1	85.3	52.0	69.5	10.9	90.8	61.3
ゆきん子舞	80.8	78.7	87.6	95.3	86.7	67.1	90.3	90.2	95.0	61.0	89.9	83.3
新之助	-	-	100.0	94.3	97.1	99.9	99.7	82.7	98.5	98.1	99.3	96.3
うるち計	69.7	89.0	86.1	82.8	75.2	32.7	82.9	82.6	81.4	12.7	84.0	69.5
こがねもち	53.7	49.5	26.4	52.1	16.8	33.8	31.2	44.7	37.1	24.0	26.7	36.9
わたぼうし	70.4	56.0	71.0	55.7	44.8	12.4	54.4	45.8	63.1	56.6	22.3	53.0
もち米計	58.2	51.1	35.2	53.2	20.8	27.1	36.8	44.8	42.9	29.7	25.5	40.0
五百万石	30.6	60.2	69.0	71.9	52.0	81.3	13.2	68.5	71.8	67.4	92.9	58.6
越淡麗	54.6	100.0	83.8	58.1	49.5	6.7	14.1	70.9	61.3	0.0	91.6	49.9
酒米計	31.7	61.9	70.4	70.5	51.8	74.0	13.3	68.8	70.8	63.0	92.8	57.6
合計	68.2	86.4	83.7	81.8	73.4	33.2	80.5	81.2	80.0	14.1	82.3	68.3

※平年はH26～R5の単純平均

※普及指導センター管内は、H27まで西蒲区、H28以降は西区及び西蒲区

資5 大豆検査成績

(1) 令和6年産 地域別大豆等級数・粒別比率

ア 里のほほえみ

地区	等級別出荷数量 (kg)						粒別生産比率 (%)			2等 以上 比率 (%)	3等 以上 比率 (%)
	1等	2等	3等	特定 加工	規格外	合計	大粒	中粒	小粒		
巻地区	0	0	3,810	46,920	0	50,730	81.5	16.9	1.5	0.0	7.5
漆山地区	0	0	12,090	51,660	0	63,750	72.2	24.2	3.6	0.0	19.0
岩室地区	0	0	1,002	123,071	0	124,073	75.8	22.4	1.8	0.0	0.8
潟東地区	0	0	14,765	97,175	0	111,940	77.6	20.6	1.9	0.0	13.2
中之口地区	0	0	73,257	132,635	0	205,892	73.4	25.4	1.3	0.0	35.6
西川地区	0	0	4,200	106,110	0	110,310	86.1	12.8	1.1	0.0	3.8
総計 (平均)	0	0	109,124	557,571	0	666,695	77.1	21.2	1.7	0.0	16.4

※注：JA新潟かがやきへの出荷・検査実績による（持ち帰り含む）。地域区分は受託者属人により集計

イ エンレイ

地区	等級別出荷数量 (kg)						粒別生産比率 (%)			2等 以上 比率 (%)	3等 以上 比率 (%)
	1等	2等	3等	特定 加工	規格外	合計	大粒	中粒	小粒		
巻地区	0	0	0	660	720	1,380	47.8	52.2	0.0	0.0	0.0
漆山地区	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—
岩室地区	0	0	0	29,221	0	29,221	31.5	57.3	11.1	0.0	0.0
潟東地区	0	0	0	140,968	0	140,968	22.1	55.9	22.0	0.0	0.0
中之口地区	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—
西川地区	0	0	0	68,130	0	68,130	46.2	45.4	8.4	0.0	0.0
総計 (平均)	0	0	0	238,979	720	239,699	30.3	53.1	16.7	0.0	0.0

※注：JA新潟かがやきへの出荷・検査実績による（持ち帰り含む）。地域区分は受託者属人により集計

ウ 青大豆、岩手みどり、その他

地区	等級別出荷数量 (kg)						粒別生産比率 (%)			2等 以上 比率 (%)	3等 以上 比率 (%)
	1等	2等	3等	特定 加工	規格外	合計	大粒	中粒	小粒		
巻地区	0	0	0	120	0	120	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
漆山地区	0	0	0	360	0	360	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
岩室地区	0	0	0	2,310	0	2,310	93.5	6.5	0.0	0.0	0.0
潟東地区	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—
中之口地区	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—
西川地区	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—
計 (平均)	0	0	0	2,790	0	2,790	94.6	5.4	0.0	0.0	0.0

※注：JA新潟かがやき検査実績による（持ち帰り含む）。地域区分は受託者属人により集計

(2) 大豆等級および収量の推移

年	等級 (%)										単収(kg/10a)		
	里のほほえみ					エンレイ					全体	里のほほえみ	エンレイ
	1等	2等	3等	特定 加工	規格外	1等	2等	3等	特定 加工	規格外			
R6	0.0	0.0	16.4	83.6	0.0	0.0	0.0	0.0	99.7	0.3	157	157	176
R5	0.0	0.0	18.4	81.5	0.1	0.0	0.0	11.6	86.7	1.8	155	163	152
R4	0.0	0.0	53.9	45.7	0.3	0.0	0.0	38.5	61.5	0.0	147	144	208
R3	0.0	0.0	34.3	65.7	0.0	0.0	0.0	0.9	98.6	0.6	184	189	166
R2	0.0	0.0	4.2	95.2	0.6	0.0	0.0	0.2	99.8	0.0	134	137	109
R元	0.0	0.1	16.1	75.1	8.8	0.0	0.0	6.8	90.3	2.9	195	200	180
H30	0.0	6.0	68.2	25.8	0.0	0.0	6.6	70.2	23.2	0.0	159	160	159
H29	1.1	25.4	48.3	24.7	0.5	0.0	6.8	66.5	26.7	0.0	155	144	169
H28	0.0	6.5	54.2	39.4	0.0	0.0	0.0	29.7	70.2	0.1	190	270	188
H27	22.0	62.7	4.5	10.8	0.0	0.0	1.6	63.0	35.4	0.0	184	226	177
H26	—	—	—	—	—	0.0	0.0	33.0	66.4	0.6	138	—	129
平年	2.6	11.2	33.6	51.5	1.1	0.0	1.5	32.0	65.9	0.6	164	181	164

※里のほほえみは、過去9年平均

資6 麦検査成績

(1) 大麦等級数の推移

ア ミノリムギ

年度	等級別出荷数量 (t)			
	1 等	2 等	規格外	合計
R 2	0	0	0	0
R 3	0	0	0	0
R 4	0	7	0	7
R 5	0	18	0	18
R 6	0	0	0	0

※注：J A新潟かがやきへの出荷・検査実績による（持ち帰り含む）

イ ゆきはな六条

年度	等級別出荷数量 (t)				
	1 等	2 等	規格外	(参考) 醸造用	合計
R 6	0	0	0	32	32

※注：J A新潟かがやきへの出荷実績による（醸造用のため等級検査なし）

(2) 小麦等級数の推移

ア ゆきちから

年度	等級別出荷数量 (t)			
	1 等	2 等	規格外	合計
R 2	0	29	0	29
R 3	0	53	0	53
R 4	0	142	0	142
R 5	0	64	0	64
R 6	0	29	0	29

※注：J A新潟かがやきへの出荷・検査実績による（持ち帰り含む）

イ 夏黄金

年度	等級別出荷数量 (t)			
	1 等	2 等	規格外	合計
R 2	0	0	0	0
R 3	0	0	0	0
R 4	0	17	0	17
R 5	0	172	0	172
R 6	0	202	13	215

※注：J A新潟かがやきへの出荷・検査実績による（持ち帰り含む）

(3) 麦等級の推移

年度	大麦			小麦		
	1 等	2 等	規格外	1 等	2 等	規格外
R 2	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
R 3	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
R 4	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
R 5	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
R 6	-	-	-	0.0	94.6	5.4

※注：J A新潟かがやきへの出荷・検査実績による（持ち帰り含む）

資 7 年次別水稻生育調査結果

コシヒカリ

草丈：cm 莖数：本/㎡ 葉数：L 葉色：SPAD値

区 分	年度	移植日	5月30日			6月10日			6月20日			6月30日			7月10日			7月20日			7月25日			7月30日					
			草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数			
全 体	H26	5月6日	24	87	5.1	32	250	7.2	38.8	42	418	8.9	39.1	54	511	10.3	37.5	67	458	11.4	35.2	76	419	12.1	34.6	93	384	13.3	32.5
	H27	5月6日	24	98	5.3	31	266	7.3	37.4	38	409	8.7	40.1	52	503	10.0	36.7	61	459	10.8	34.0	76	412	12.0	30.6	90	404	12.9	31.6
	H28	5月5日	30	148	5.9	34	316	7.5	37.9	47	483	9.3	40.6	59	497	10.2	36.3	73	451	11.3	34.0	85	417	12.2	32.3	98	391	13.0	31.7
	H29	5月5日	26	112	5.7	30	210	7.0	35.5	34	351	8.6	38.1	42	487	9.6	39.3	63	441	10.9	38.1	80	394	12.1	33.1	92	372	13.1	32.6
	H30	5月5日	25	92	5.1	31	269	7.0	39.5	37	392	8.2	38.9	45	506	9.4	39.0	70	425	10.9	36.8	82	385	12.0	32.4	95	365	12.9	30.2
	R 1	5月5日	27	162	6.3	34	322	8.1	40.0	42	464	9.2	38.7	54	514	10.4	38.3	69	445	11.3	36.3	78	413	12.0	33.3	92	392	13.3	32.4
	R 2	5月5日	28	124	5.6	32	296	7.6	36.1	44	402	8.9	39.5	56	453	10.3	35.7	67	430	11.0	35.5	82	376	12.1	34.2	95	357	13.1	33.0
	R 3	5月7日	27	86	5.3	30	219	7.1	37.6	41	420	8.8	38.8	55	496	10.0	36.9	65	467	10.9	35.6	85	416	12.2	34.2	96	385	13.0	30.2
	R 4	5月4日	26	141	6.2	28	260	7.3	36.2	36	422	9.1	39.7	58	483	10.5	39.5	77	405	11.7	33.6	87	391	12.5	32.5	95	382	13.2	32.5
	R 5	5月6日	26	115	5.6	30	214	6.9	35.4	43	377	8.7	39.9	55	464	9.7	38.8	73	426	11.0	37.0	84	394	12.0	34.5	92	355	13.0	32.0
分 施 栽 培	平年値	5月5日	26	117	5.6	31	262	7.3	37.4	40	414	8.8	39.3	53	491	10.0	37.8	69	441	11.1	35.6	81	402	12.1	33.2	95	379	13.1	31.9
	R 6	5月5日	28	94	5.7	31	218	7.3	36.6	44	398	9.2	40.5	61	449	10.4	38.7	74	408	11.5	37.9	84	374	12.3	36.4	93	340	13.4	33.3
	H26	5月10日	23	66	4.8	30	174	7.2	39.3	40	387	9.1	38.0	52	493	10.6	37.4	68	447	11.7	37.5	77	403	12.3	36.8	94	370	13.7	34.6
	H27	5月11日	20	67	4.5	28	237	6.9	38.3	37	372	8.6	43.2	51	533	10.0	37.7	62	467	10.8	35.6	76	416	12.1	31.5	88	415	13.1	31.0
	H28	5月10日	29	138	5.7	33	298	7.4	37.8	45	460	9.1	41.3	60	523	10.2	36.4	73	469	11.1	34.1	85	416	12.1	30.9	97	396	12.8	30.6
	H29	5月9日	24	111	5.5	27	194	6.7	36.1	32	380	8.4	39.0	41	513	9.6	39.6	64	455	10.9	38.5	78	419	12.1	32.9	89	382	13.3	32.4
	H30	5月9日	21	68	4.7	28	194	6.5	36.8	34	280	8.1	38.0	42	410	9.4	38.3	69	375	10.9	36.3	78	347	12.0	31.6	92	321	13.3	30.1
	R 1	5月9日	25	113	5.8	31	247	7.5	38.5	38	359	8.8	37.0	50	468	10.1	40.0	66	406	11.0	36.9	73	374	11.7	32.8	87	347	13.3	31.9
	R 2	5月9日	25	102	5.0	28	217	7.0	35.3	41	328	8.3	39.3	53	415	9.9	34.8	64	422	10.7	36.9	78	363	11.9	34.0	89	334	13.0	33.7
	R 3	5月11日	25	67	4.9	28	177	6.8	35.5	41	415	9.0	38.4	54	516	10.2	37.3	65	477	11.1	35.8	84	411	12.3	32.7	95	355	13.2	30.6
全 量 基 肥 栽 培	R 4	5月7日	26	120	5.9	28	235	7.4	34.8	34	404	9.0	38.0	55	458	10.4	38.6	72	407	11.6	30.7	81	382	12.6	31.5	91	352	13.4	31.9
	R 5	5月8日	25	112	5.2	29	213	6.7	34.5	44	423	8.8	39.8	54	541	9.8	37.8	73	496	11.0	35.0	83	429	12.1	32.4	99	374	13.1	31.1
	平年値	5月9日	24	96	5.2	29	218	7.0	36.7	39	381	8.7	39.2	51	487	10.0	37.8	67	442	11.1	35.7	79	396	12	32.7	92	365	13.2	31.8
	R 6	5月8日	24	89	5.1	30	176	6.9	34.2	44	393	9.0	41.4	62	457	10.4	39.0	74	440	11.4	38.8	85	413	12.2	36.0	93	365	13.6	33.3
	H26	5月5日	25	96	5.2	33	282	7.2	38.6	43	431	8.8	39.6	54	519	10.2	37.6	67	463	11.3	34.2	76	425	12.0	33.7	93	390	13.1	31.7
	H27	5月4日	26	111	5.6	32	278	7.5	37.0	39	424	8.8	38.8	52	490	10.0	36.4	61	455	10.8	33.4	76	411	12.0	30.2	91	400	12.8	31.9
	H28	5月3日	31	152	6.0	35	324	7.5	37.9	48	493	9.3	40.3	59	485	10.2	36.3	73	443	11.4	34.0	85	418	12.3	33.0	99	389	13.1	32.2
	H29	5月5日	27	112	5.7	30	214	7.1	35.3	34	344	8.6	37.9	42	481	9.7	39.2	63	438	10.9	38.0	81	388	12.1	33.2	92	368	13.0	32.7
	H30	5月3日	27	98	5.2	32	290	7.1	40.3	38	423	8.3	39.1	46	532	9.4	39.1	71	439	10.9	36.9	83	395	11.9	32.6	96	379	12.8	30.2
	R 1	5月3日	28	176	6.4	35	342	8.2	40.5	43	492	9.3	39.1	55	526	10.4	37.9	70	455	11.4	36.1	79	423	12.1	33.4	93	404	13.3	32.5
全 量 基 肥 栽 培	R 2	5月4日	28	131	5.7	33	317	7.8	36.3	44	421	9.1	39.5	57	463	10.4	36.0	68	432	11.1	35.1	83	379	12.2	34.3	96	364	13.1	32.8
	R 3	5月6日	27	90	5.4	30	227	7.1	38.0	41	421	8.8	38.9	55	493	9.9	36.8	65	465	10.9	35.5	85	416	12.2	34.5	97	390	13.0	30.1
	R 4	5月3日	26	149	5.9	28	266	7.3	36.6	36	428	9.2	40.3	59	489	10.5	39.8	79	404	11.8	34.5	89	394	12.5	32.8	96	390	13.1	32.7
	R 5	5月5日	26	116	5.8	30	214	6.9	35.7	42	363	8.7	39.9	55	441	9.7	39.0	73	405	11.0	37.6	84	384	12.0	35.1	90	349	13.0	32.2
	平年値	5月4日	27	123	5.7	32	275	7.4	37.6	41	424	8.9	39.3	53	492	10.0	37.8	69	440	11.1	35.5	82	403	12.1	33.3	95	382	13.0	31.9
	R 6	5月4日	29	96	5.9	31	229	7.4	37.2	43	399	9.3	40.3	61	447	10.5	38.6	74	399	11.5	37.7	84	364	12.3	36.6	99	334	13.4	33.3

こしいぶき

草丈：cm 茎数：本/m² 葉数：L 葉色：SPAD値

年度	移植日	5月30日			6月10日			6月20日			6月30日			7月10日			7月20日			7月30日								
		草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数						
H26	5月6日	26	90	5.5	30	297	8.0	38.7	38	501	9.5	39.9	50	630	10.8	38.6	61	446	12.0	37.7	69	405	12.9	35.0	90	428	13.3	37.5
H27	5月3日	26	119	5.9	31	408	8.3	41.8	38	484	9.2	41.8	52	524	10.4	38.5	59	492	11.2	36.1	75	466	12.2	35.7	71	440	12.8	36.6
H28	5月3日	28	185	6.1	31	355	7.9	40.5	46	542	9.7	42.0	57	511	10.7	39.7	68	453	12.1	36.5	80	418	12.7	36.8	—	—	—	—
H29	5月3日	24	129	5.8	28	236	7.1	40.3	34	450	8.6	41.7	41	576	9.8	41.5	61	486	11.2	40.5	77	433	12.5	38.7	—	—	—	—
H30	5月3日	25	85	5.2	29	261	6.8	43.7	36	402	8.4	43.9	44	514	9.5	41.7	66	459	11.2	40.7	79	433	12.3	37.0	—	—	—	—
R 1	5月3日	24	183	6.7	32	380	8.3	41.9	40	570	9.4	41.9	54	600	10.7	42.9	68	540	11.7	40.1	77	500	12.7	38.1	—	—	—	—
R 2	5月3日	27	138	5.9	30	321	7.9	40.6	43	461	9.2	43.8	57	521	10.6	40.3	65	474	11.6	40.5	78	489	12.4	38.8	—	—	—	—
R 3	5月4日	27	100	5.4	28	214	7.0	41.0	40	398	8.9	41.3	54	489	10.0	40.1	64	467	11.1	39.1	79	421	12.4	38.0	83	391	12.7	36.5
R 4	5月4日	25	224	6.1	27	369	7.7	40.6	35	597	9.1	41.3	55	580	10.5	41.1	74	539	11.8	37.1	85	517	12.7	34.8	—	493	12.7	35.7
R 5	5月4日	24	109	5.8	28	224	7.3	40.2	42	384	9.2	44.4	54	480	10.4	42.5	73	439	11.8	39.7	84	405	12.8	38.7	—	362	13.2	36.1
平年値	5月3日	26	136	5.8	29	306	7.6	40.9	39	479	9.1	42.2	52	542	10.3	40.7	66	479	11.6	38.8	78	449	12.6	37.2	81	423	12.9	36.5
R 6	5月4日	25	93	5.6	28	249	7.1	40.6	39	451	9.1	44.5	59	500	10.8	41.5	69	441	11.9	41.3	78	397	12.6	39.6	—	386	12.9	37.8

新之助

草丈：cm 茎数：本/m² 葉数：L 葉色：SPAD値

年度	移植日	5月30日			6月10日			6月20日			6月30日			7月10日			7月20日			7月30日								
		草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数						
H29	5月14日	24	91	5.1	27	166	6.3	31.4	28	350	8.2	37.4	33	525	9.6	39.4	55	533	11.1	37.6	66	482	12.2	33.5	77	438	13.3	34.5
H30	5月13日	21	77	4.6	27	221	6.8	36.9	30	393	8.3	38.0	33	519	9.7	37.2	56	486	11.3	35.1	66	435	12.2	32.0	79	386	13.4	31.5
R1	5月13日	25	109	4.9	28	280	7.0	37.9	33	425	8.4	38.2	41	537	10.0	37.4	54	501	11.0	35.3	61	444	11.7	32.9	75	420	13.3	34.6
R2	5月13日	23	95	4.9	27	275	7.0	36.0	36	424	8.6	38.8	42	551	10.0	35.0	51	508	10.9	36.2	67	461	11.9	36.0	76	433	13.2	35.8
R3	5月13日	22	78	4.3	28	182	6.3	35.7	35	419	8.4	38.7	41	567	9.7	37.2	54	577	10.8	36.0	75	461	11.9	35.9	83	417	12.9	32.4
R4	5月12日	23	123	5.3	26	226	6.7	35.0	31	436	8.5	39.8	48	559	10.2	36.1	63	533	11.5	33.8	72	510	12.4	35.1	80	471	13.1	33.7
R5	5月14日	22	98	4.2	27	174	5.5	33.7	35	392	7.7	37.6	42	563	9.1	36.1	60	568	10.5	38.2	71	497	11.8	36.3	84	432	12.9	33.8
近年値	5月13日	23	96	4.7	27	218	6.5	35.2	32	406	8.3	38.4	40	546	9.7	36.9	56	530	11.0	36.0	68	470	12.0	34.5	79	428	13.2	33.8
R6	5月12日	23	71	4.4	28	216	6.3	35.5	36	432	8.6	38.8	49	574	10.0	36.6	62	540	11.4	37.6	75	495	12.1	36.6	84	421	13.5	36.2

※各年度のデータは生育速報データの平均値。平年値は過去10か年の平均。

※こしいぶき・新之助は、分施肥と全量基肥栽培の区分けなし。

※新之助は、H29から調査開始。

資 8 年次別水稻収量調査結果

コシヒカリ

	精玄 米重 (kg/10a)	収 量 構 成 要 素					粒 厚 分 布 (%)								精玄米 歩合 (%)	玄米 タン パク(%) *	品 質 (%)**						
		坪刈 穂数 (㎡/本)	1 穂 穂数 (粒)	㎡当たり 穂数 (粒)	登熟 歩合 (%)	千粒重 (g)	計量 収量 (kg/10a)	2.2mm	2.1mm	2.0mm	1.9mm	1.85mm	1.8mm	1.7mm			<ず*	整粒	未熟粒	被害粒	死粒	着色粒	胴割粒
H27	513	406	76.4	31,024	82.4	22.7	579	0.7	10.1	52.0	24.1	4.8	3.5	2.3	2.5	91.7	5.1	69.4	22.4	0.6	0.1	0.0	0.0
H28	550	394	78.1	30,647	88.9	21.7	593	2.0	19.8	53.2	16.9	3.4	2.0	1.4	1.4	95.2	5.4	65.7	31.3	0.9	0.1	0.0	1.9
H29	481	377	76.4	28,795	85.9	22.4	553	1.9	18.3	49.3	19.8	4.6	2.7	1.8	1.7	93.9	5.6	64.1	34.7	0.8	0.2	0.0	0.2
H30	485	353	87.9	30,969	84.8	21.9	537	0.5	8.4	49.2	27.1	5.9	3.8	2.5	2.6	91.1	5.4	62.9	35.7	1.0	0.2	0.0	0.2
R元	524	401	80.6	32,230	82.9	21.5	570	3.4	29.9	47.4	13.7	2.2	1.2	1.1	1.1	94.8	5.0	55.9	35.5	1.9	2.6	0.0	4.1
R2	542	367	81.1	29,589	86.7	21.5	549	8.3	41.1	38.4	8.4	1.4	0.8	0.8	0.8	97.0	5.8	67.3	29.8	1.2	0.5	0.0	1.1
R3	493	390	79.9	30,895	78.9	22.1	460	2.7	26.5	47.0	15.4	2.9	1.9	1.8	1.8	93.4	5.7	59.0	37.8	1.6	0.7	0.0	0.8
R4	532	391	79.7	31,149	83.0	21.8	565	4.3	29.9	46.7	12.8	2.2	1.2	1.3	1.5	95.4	5.2	57.5	33.7	1.8	0.8	0.1	4.4
R5	527	368	79.7	29,326	88.9	20.7	539	5.4	34.4	45.3	11.4	1.6	0.8	0.6	0.5	98.1	5.0	49.4	48.6	0.8	0.4	0.0	0.8
近年値	516	383	80.0	30,514	84.7	21.8	549	3.3	24.3	47.6	16.6	3.2	2.0	1.5	1.5	94.5	5.4	61.3	34.4	1.2	0.6	0.0	1.5
R6	484	345	78.1	26,904	85.6	21.5	491	5.0	28.4	46.4	13.1	2.4	1.5	1.6	1.6	95.3	5.5	72.5	26.7	0.6	0.0	0.1	0.1
近年比・差	94%	90%	98%	88%	0.9	99%	89%	1.7	4.2	-1.2	-3.5	-0.8	-0.5	0.1	0.1	0.8	0.1	11.3	-7.7	-0.6	-0.6	0.0	-1.5

*測定機器 SHIZOKA TM-3500

**測定機器及び検量線 H27-R4:SATAKE RQI110B 新潟検量線、R5:SATAKE RQI1100B 新潟検量線、R6:SATAKE RQI1100B 新潟検量線

こしいぶき

	精玄米重 (kg/10a)	収量構成要素					粒厚分布 (%)								精玄米歩合 (%)	玄米タンパク (%) *	品質 (%)**						
		坪刈穂数 (㎡/本)	1穂穂数 (粒)	㎡当たり穂数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	計算収量 (kg/10a)	2.2mm	2.1mm	2.0mm	1.9mm	1.85mm	1.8mm	1.7mm			くず	整粒	未熟粒	被害粒	死粒	着色粒	胴割粒
H28	620	432	72.4	31,174	92.8	22.2	642	19.6	46.2	27.8	4.4	0.9	0.5	0.3	0.3	98.9	6.0	70.5	26.3	0.6	0.3	0.0	2.2
H29	512	401	72.3	29,082	82.9	22.2	532	2.6	25.9	50.5	13.3	2.8	1.6	1.4	1.8	93.5	6.3	63.7	34.3	1.1	0.5	0.0	0.5
H30	546	370	80.8	29,507	85.4	22.5	569	4.8	32.3	46.4	10.3	2.3	1.4	1.2	1.2	96.2	5.9	63.4	34.9	0.9	0.2	0.0	0.6
R元	542	345	74.6	25,951	83.2	21.1	454	10.3	40.6	37.9	8.3	1.2	0.6	0.6	0.5	98.3	6.2	60.8	34.9	1.3	2.4	0.0	0.7
R2	573	408	69.3	28,069	88.8	21.4	533	8.2	42.2	39.0	7.5	1.1	0.6	0.7	0.7	97.9	6.4	66.6	31.5	0.8	0.6	0.0	0.6
R3	637	402	72.4	29,050	89.5	21.8	567	8.1	42.5	38.6	8.1	1.1	0.5	0.5	0.6	98.4	5.5	57.9	35.0	0.9	2.7	0.0	3.6
R4	616	463	73.9	33,915	83.1	22.2	623	11.7	47.0	30.6	6.7	1.3	0.8	0.9	1.0	97.3	5.7	61.1	32.3	1.9	1.2	0.0	3.6
R5	579	396	84.0	33,274	87.1	20.7	600	10.6	43.3	35.0	7.8	1.3	0.7	0.7	0.6	97.9	5.9	52.7	45.0	0.9	0.3	0.0	1.2
近年値	578	402	75.0	30,003	86.6	21.8	565	9.5	40.0	38.2	8.3	1.5	0.9	0.8	0.8	97.3	6.0	62.1	34.3	1.0	1.0	0.0	1.6
R6	564	417	77.2	32,134	87.2	21.5	603	18.0	42.0	30.0	6.3	1.2	0.7	0.9	0.9	97.6	5.9	70.6	28.7	0.4	0.1	0.0	0.2
近年比・差	98%	104%	103%	107%	0.6	99%	107%	8.5	1.9	-8.2	-2.0	-0.3	-0.1	0.1	0.0	0.3	-0.1	8.5	-5.5	-0.6	-0.9	0.0	-1.4

新之助

	精玄 米重 (kg/10a)	収 量 構 成 要 素						粒 厚 分 布 (%)								精玄米 歩合 (%)	玄米 タン パク (%) *	品 質 (%) **					
		坪刈 穂数 (㎡/本)	1 穂 穂数 (粒)	㎡当たり 粒数 (粒)	登熟 歩合 (%)	千粒重 (g)	計算 収量 (kg/10a)	2.2mm	2.1mm	2.0mm	1.9mm	1.85mm	1.8mm	1.7mm	くず			整粒	未熟粒	被害粒	死粒	着色粒	胴割粒
H28	591	412	74.6	30,711	92.0	24.1	679	6.5	42.7	40.9	6.8	1.4	0.7	0.5	0.5	97.1	5.4	65.6	33.3	0.5	0.0	0.0	0.6
H29	534	377	76.3	28,663	88.9	24.4	620	6.9	34.3	41.5	10.7	2.5	1.5	1.3	1.4	93.4	5.7	62.2	34.7	1.1	0.3	0.0	1.7
H30	528	393	78.7	31,053	76.6	23.5	519	3.0	22.5	50.2	17.4	3.3	1.7	1.0	1.0	93.1	6.0	64.6	34.4	0.8	0.1	0.1	0.1
R元	621	322	73.4	23,472	83.7	23.8	467	4.9	35.4	45.9	9.6	1.3	0.8	0.9	1.1	95.9	4.6	62.9	32.9	1.6	0.3	0.0	2.3
R2	611	410	76.8	30,487	89.1	23.1	632	6.5	32.4	41.7	13.5	2.7	1.4	1.1	0.6	94.2	6.0	52.4	26.4	0.8	0.2	0.0	0.2
R3	586	436	78.6	34,203	83.7	22.8	651	1.0	13.1	54.5	21.9	3.6	2.0	1.9	2.0	90.6	4.8	53.9	32.7	2.4	0.5	0.0	2.2
R4	576	427	74.1	31,896	80.3	22.7	568	1.1	14.5	59.7	18.2	2.8	1.3	1.3	1.2	93.5	5.4	59.4	36.8	1.5	0.2	0.0	2.1
R5	622	419	75.4	31,693	88.7	22.7	639	14.0	47.2	32.0	5.1	0.7	0.3	0.4	0.4	98.3	5.3	71.5	27.5	0.7	0.1	0.0	0.2
近年値	584	399	76.0	30,272	85.4	23.4	597	5.5	30.3	45.8	12.9	2.3	1.2	1.0	1.0	94.5	5.4	61.5	32.3	1.2	0.2	0.0	1.2
R6	571	402	72.3	28,738	86.8	22.5	561	6.8	36.3	43.4	9.3	1.5	0.8	0.9	0.9	95.8	5.3	78.3	20.8	0.6	0.1	0.0	0.2
近年比・差	98%	101%	95%	95%	1.5	96%	94%	1.3	6.0	-2.4	-3.6	-0.8	-0.4	-0.1	-0.1	1.3	-0.1	16.7	-11.6	-0.6	-0.1	0.0	-0.9

※データは各年度の普及センター定点調査・JA調査の平均値